



今世經三才
初編

松林伯圓作
梅堂國政畫

松延堂梓



25

20

15

10



滋賀縣
美談
今帝盤布施譚

初編上

A479
1

A479



48-8180

郵便報知新聞第七百六十七號より説出た一條の長物語の端で戊辰の年
 開き頗る著名の疑獄にして流石穎敏の聞えある縣令松田道之君もその
 審理に悩むたるや種々の証左を添へて司法省小具申し法官交々其事
 と管一凡十六名を替へて初め落着いたる古今稀有の一話なり其
 事柄の珍らしきより殆ど稗史の類とて怪む者も有らんが現に其妻に預
 まし人々の親話よく決て事實に差異有る小切に治罪の考考ふら成
 金き飲と物語の緒言は滋賀縣下近江國蒲生郡上大木林村に布施と
 之る一孀婦あり性質伶俐りて容姿も美なり和歌の道も通し漢
 籍も学び得て氣品高き女丈夫ありけり下文談新聞の文と其序文に
 借りて今常盤布施物語の發端と開く

千時明治十二年
 同西の書茶初蜀館と存年
 松林伯圓記



布施初上



布施初太郎



布施初

丹野与三右門

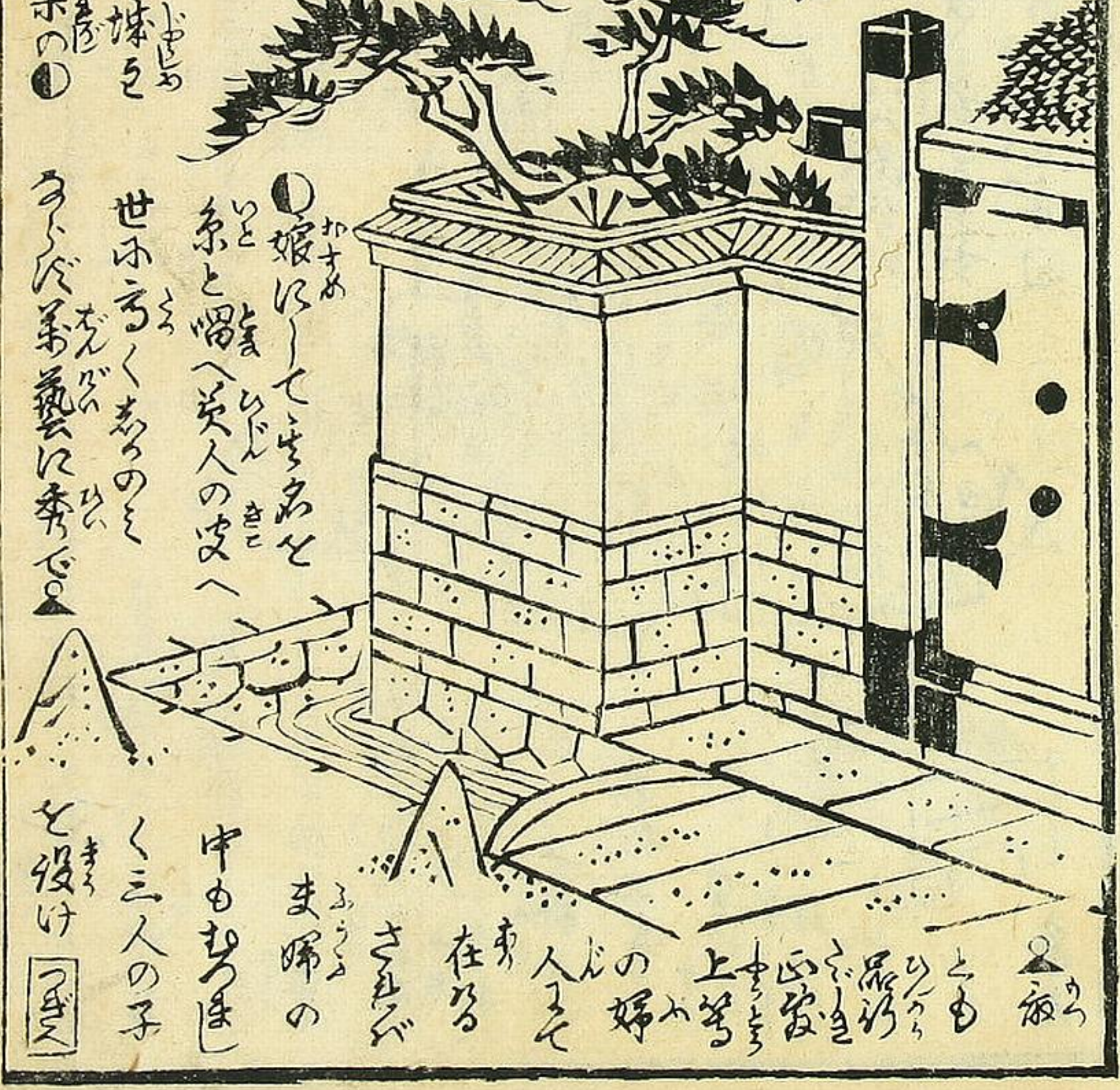
寡婦布施絲



最上家の執事
宮田忠左門

第一回 妻不流出に永物持

一過一遺 妻不流出に永物持
 ての流九年の秋小松
 十有餘年の住る近江の國
 小あり一烈女の奇談
 折近江玉浦生郡上大
 森村と云ふ所の四幕府
 の跡の南上磯河吉の
 頭地にては地味去是
 の代友波布純仙存の
 との若あり家室常く
 其の常一妻の同玉水の味を
 加る候の落中不て山採某の



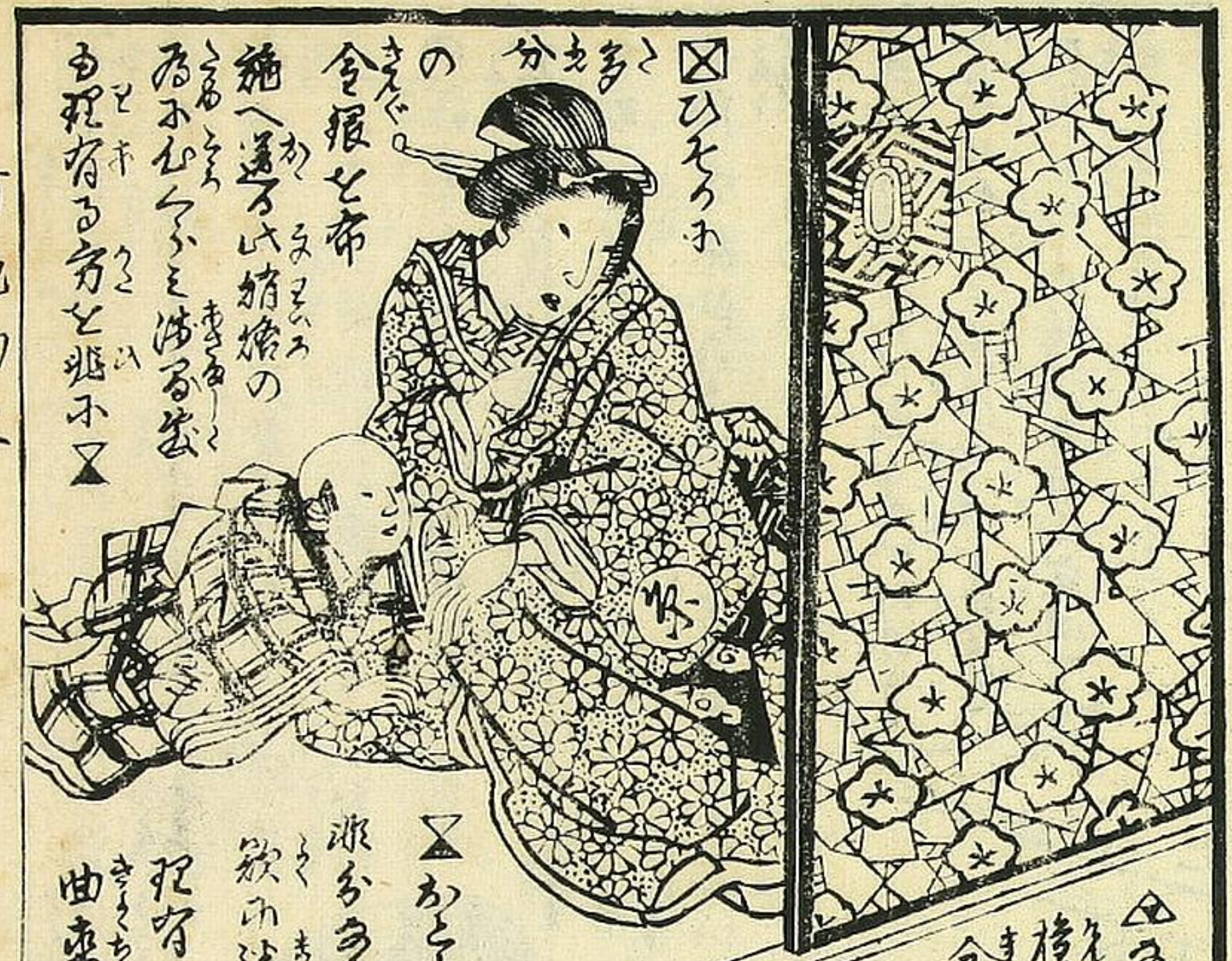
娘はしてまゝを
 糸と留へ美人の波へ
 世小ちくあつもの
 まるは氣に奔る

中もむつほ
 く三人の子
 と役け

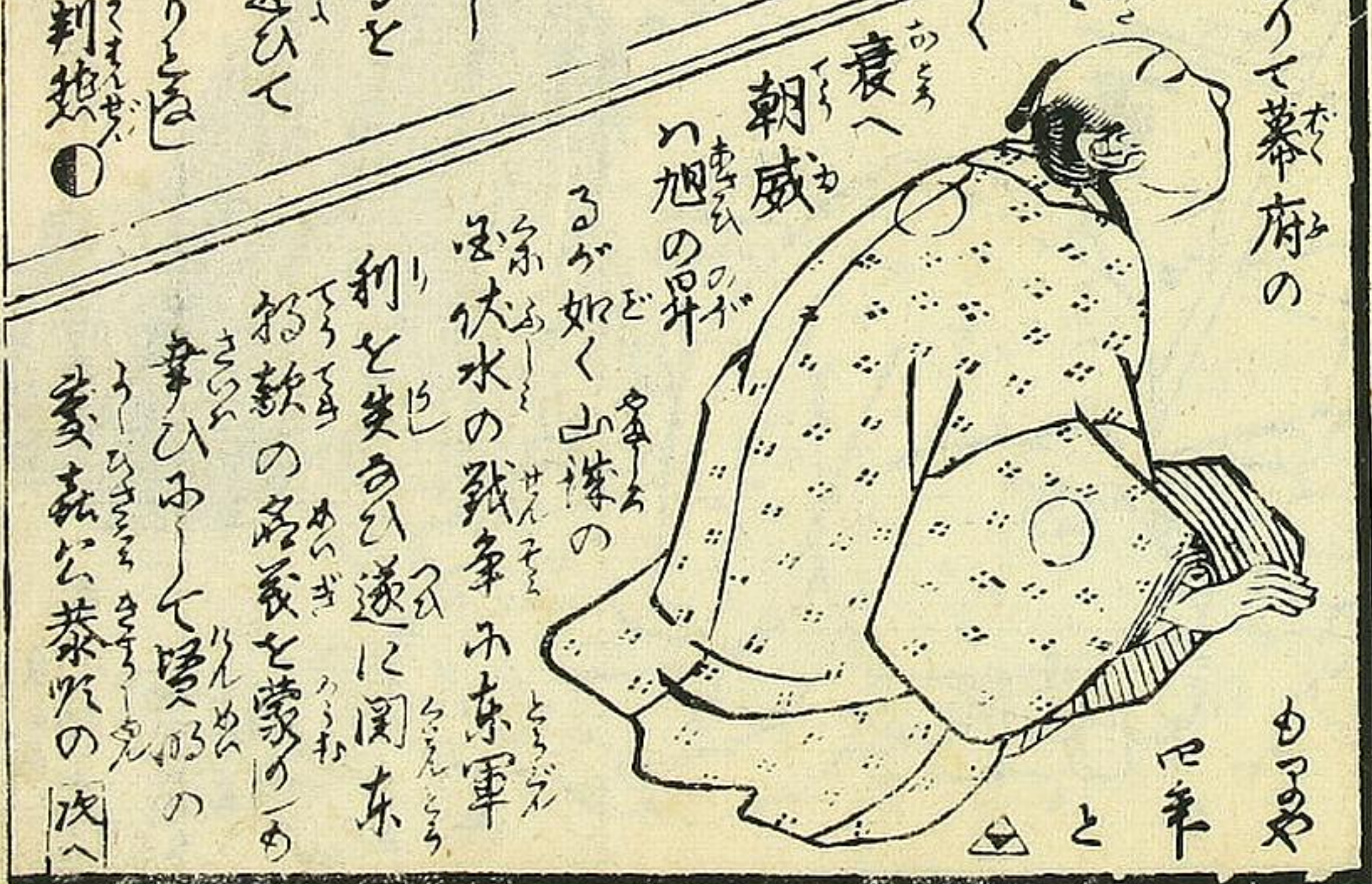
〔巻〕 熱頭ハ女子ヲ其ハテ根藤ノ密田氏ハ其女ノ
 約定トシテ次ハ男子トシテ物ヲ寄ト名附クニハ
 女子トシテ後子トシテ何モ言ハズ生立放
 掌中ノ玉ト愛リクニ世ト面ヨク送リシハ
 盈盛ハカラス浮世ノ夢ハ以テ絶
 小災害ノ生ズル緒云ハ夢ヲ
 元年ノ秋ノ以テ絶
 支死スル大森村小農氏
 新松事出来テ心ハ其ノ
 裁判トアリメ日々白附小カノテ
 判決ト取ラント事ヲ始メ小生以テ其ノ
 聖代ト事ウケテ法律ノ色ニ定マラス
 友ノ審判ハ私多く一方ノ新松人ナリ



○ みるべしと猪尾小取
 方ハ裁判ノ正
 うらげと平更と留
 猪尾方ハ大ハ
 懐ニ以テ尚布絶
 面ヨクテ種々
 手物ト送リ
 多ニ光
 陰ハ團
 吉
 慶

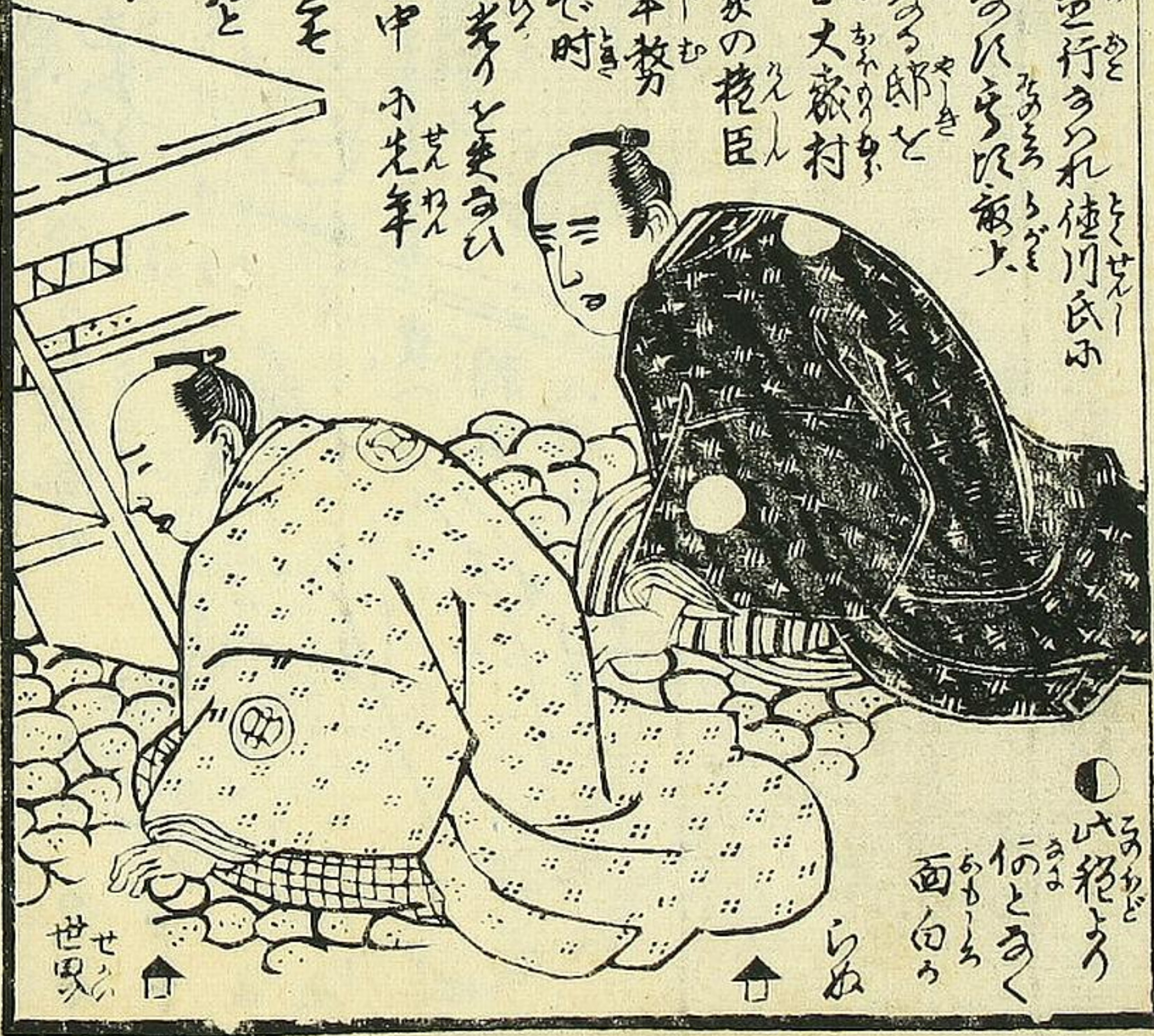


△ ひそり
 令振と布
 施へ送リテ箱橋ノ
 看小むかふと流るる
 由程有る方と進小

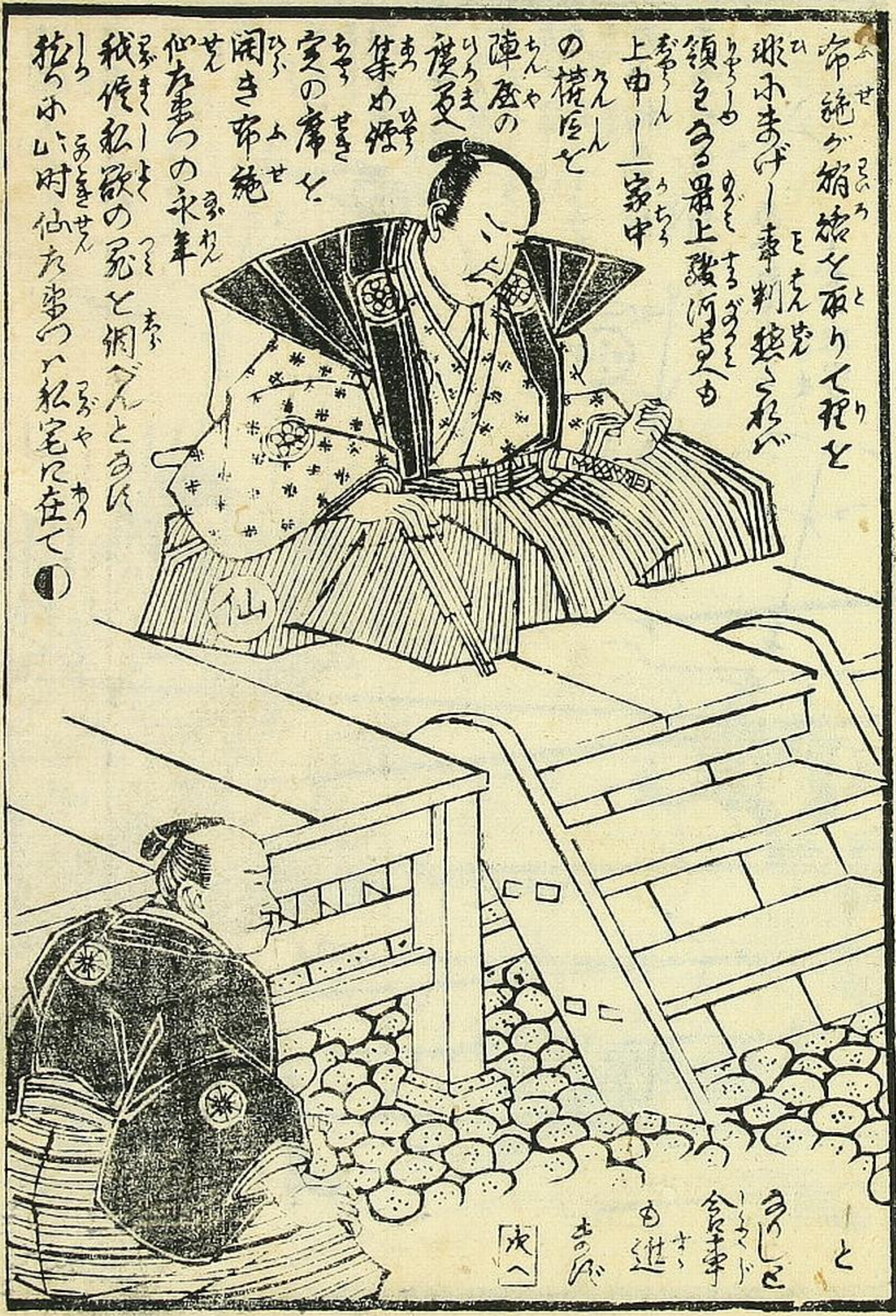


△ ありて幕府ノ
 朝威
 旭ノ昇
 宗如水ノ戦事ハ東軍
 利ト其方ハ遂ニ関東
 約款ノ名義ト蒙リ
 幸ハ以テ
 慶長公禁煙ノ次

つぎ情実形世寛典の山所立行われ徳川氏小
 封を納り天下衛すく平定ありて後大
 駿河書由の江戸本大川揚るる邸と
 引たりひ一様残らぬ道にの西大蔵村
 の陸をへ去るるすは時最上家の権臣
 宮田忠直といふ者内外の事務
 と取らるる事とありて今ま中時
 の色布純仙たのハ其の考りと其の
 口懐きさるるの目々に多かる中 小元年
 裁判小まけたる若ともは時小を
 宮田に依頼し再び吟味を要すと
 釈とせしめ所小及宮田の
 史を採索る世 不知何由

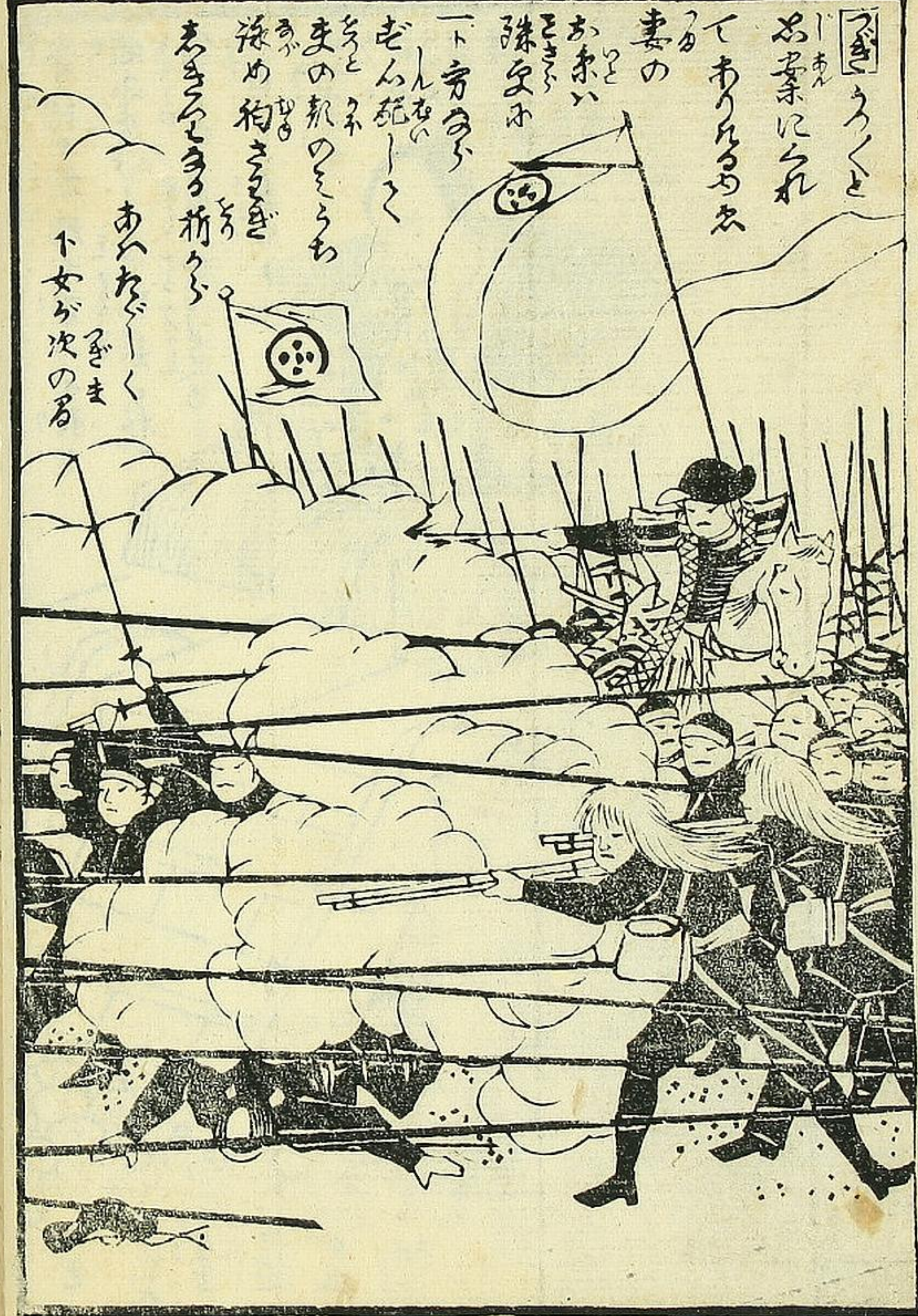
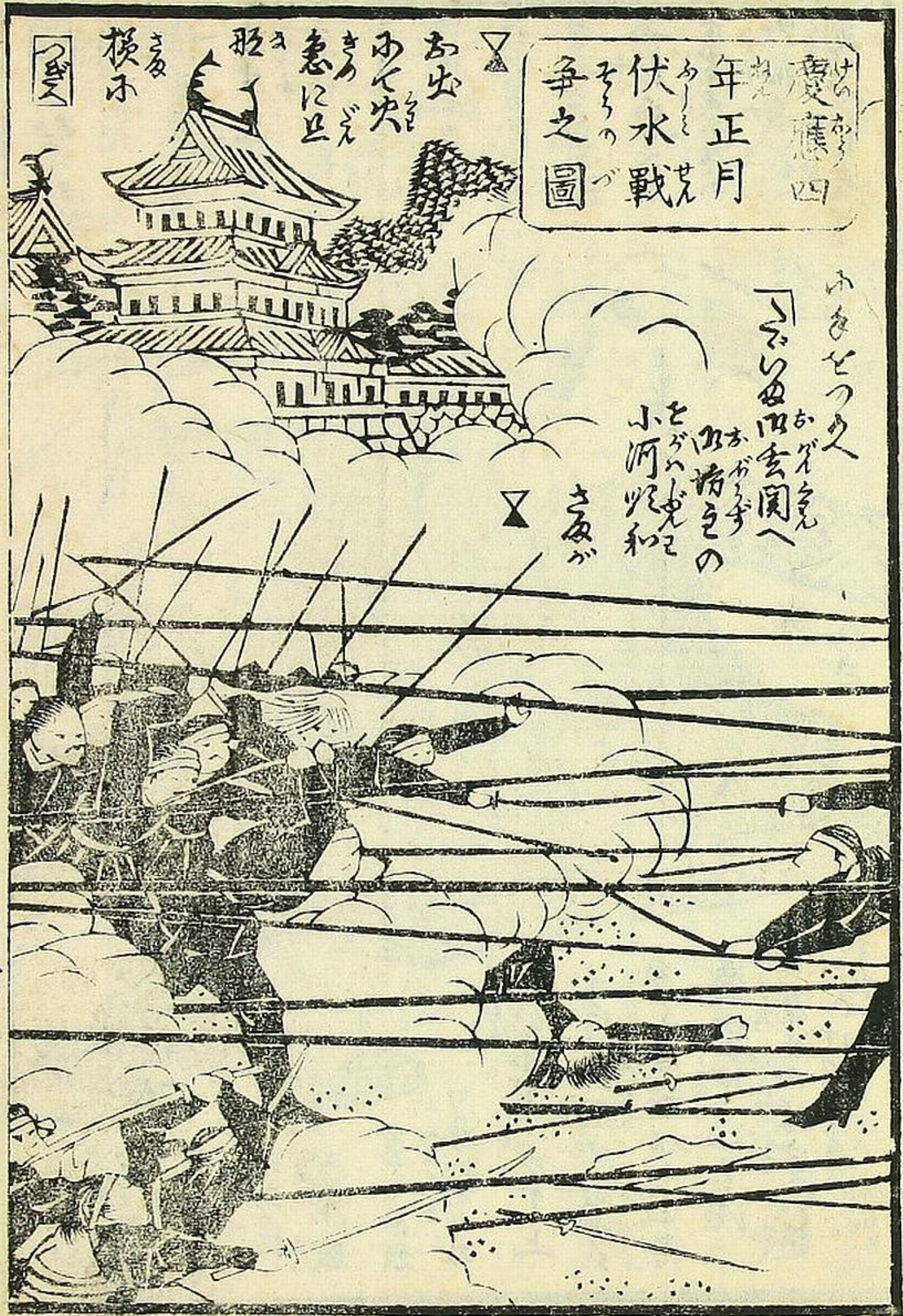


此絶より
 何となく
 面白う
 らぬ
 世



命絶か縮結をとりて和と
 取小まげ一奉判然とね
 領をさる上駿河を由
 上申一家中
 の権臣と
 陣屋の
 度更
 集め
 定の席と
 閑き布純
 仙
 仙在事の永年
 秋後私欲の死と備げんとあり
 括り小い時仙た事の私宅に在て

と
 合
 由
 世



市色四二

市色四二

五

つぎお目には
 掛置たんと
 作せむさる
 まつと徳見
 まつと徳見
 うまづ見
 の油利の船
 ねども見たと
 中せと挨拶
 小籠あ入り
 赤茶の
 吹和長るへ
 通りて様と



お目には
 赤茶の
 吹和長るへ
 通りて様と
 まつと徳見
 うまづ見
 の油利の船
 ねども見たと
 中せと挨拶
 小籠あ入り
 赤茶の
 吹和長るへ
 通りて様と

の
 迷之声と密
 めとさる
 火相長る
 紙うふま
 一の海の家
 小あふはあ
 家探の天
 事只今
 殿中の怪
 定とあり
 密お退せ
 して西紙
 りきた

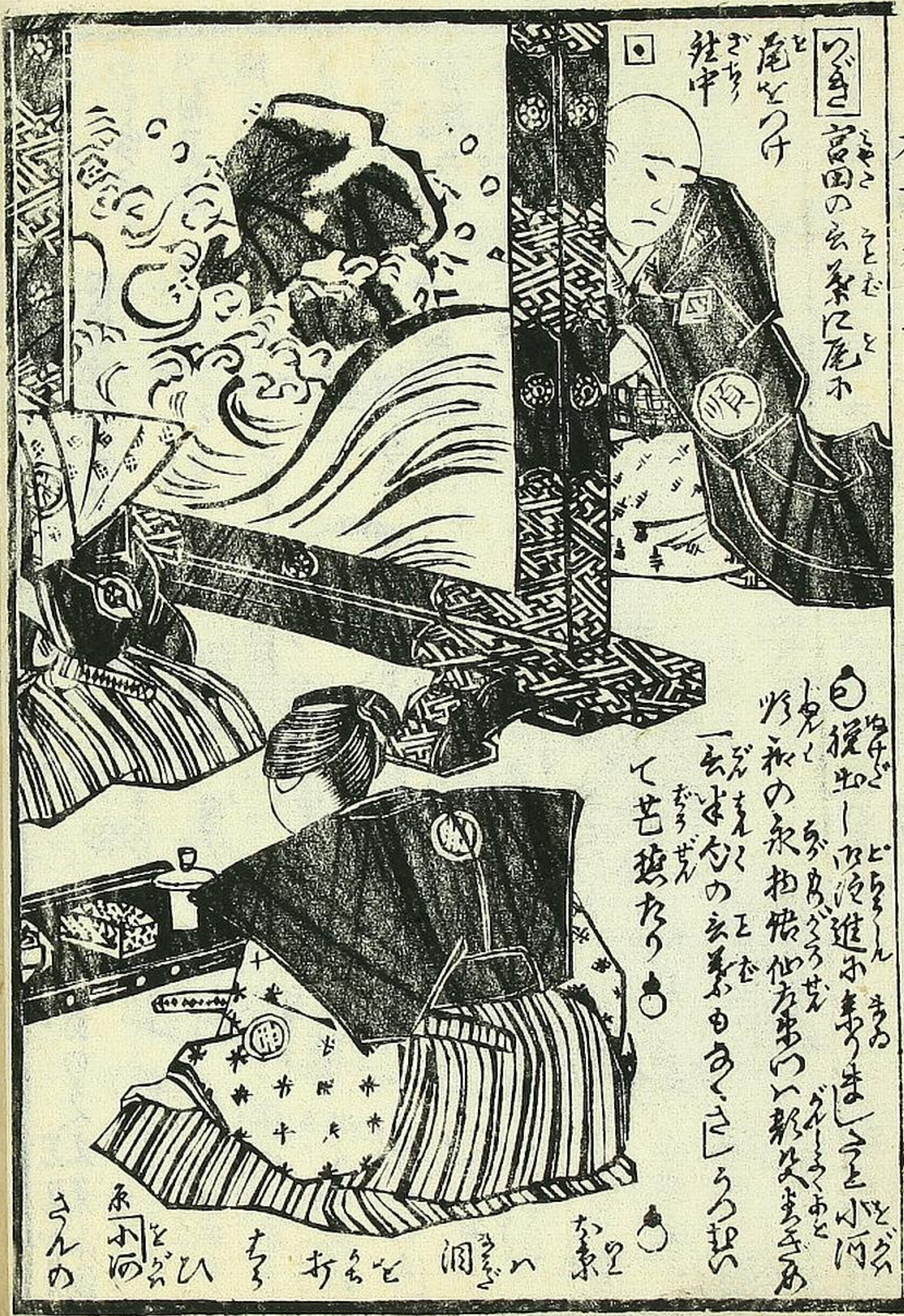


仙
 何と
 拙者の一大事
 ひと何と
 字くくと妻も借とも
 忠
 何と
 出八又四氏
 再吟味
 何と
 鶴屋の正
 上る
 忠
 仙と
 葉と次へ

市虎切上

尾中
尾中

尾中



尾中
尾中
尾中

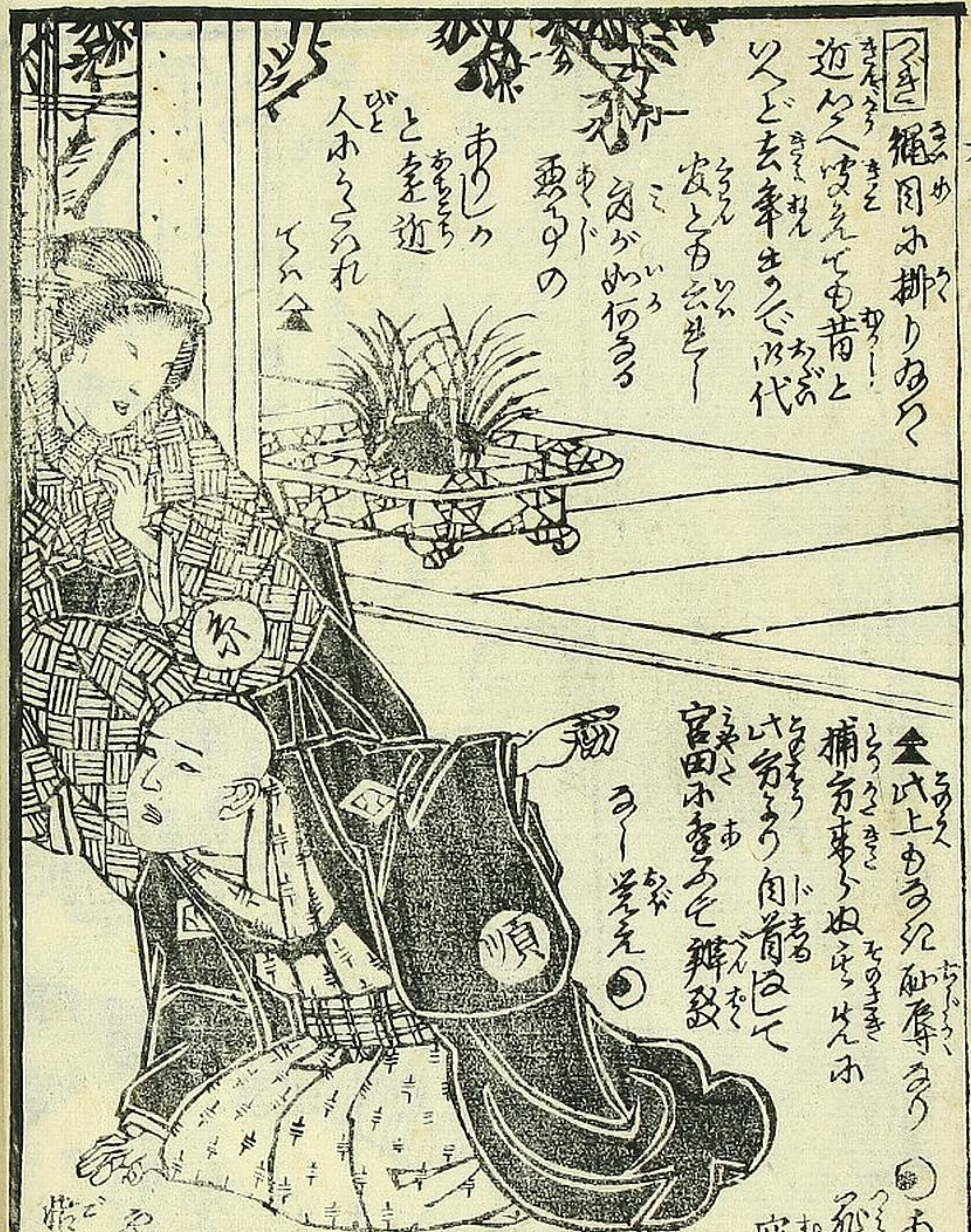


尾中
尾中
尾中

市虎切上



仙
 此の袋は... (The bag is...)
 ... (text continues describing the bag and its contents)
 ... (text continues describing the scene)
 ... (text continues describing the scene)
 ... (text continues describing the scene)



順
 ... (text continues describing the scene)
 ... (text continues describing the scene)
 ... (text continues describing the scene)
 ... (text continues describing the scene)

籠目お掛りあり
 ... (text continues describing the scene)
 ... (text continues describing the scene)

以上もある... (The above is also...)
 ... (text continues describing the scene)
 ... (text continues describing the scene)

... (vertical text on the right edge)

... (vertical text on the right edge)



ついでにせぬかあてていへるまかせぬかあ何とせしむ
 コレ仙の影の落るるりてしむさうきかアア奥梅
 仙一人のいりてを寄せるこれと遠いあいの来り
 ろう程あるにせしむる情のいし程梅
 お後の中の威光でいあめつ
 世にさうえ来れりあはせは
 少細の事しゆあはせは
 うけりて生れぬあはせは
 身の失はれぬあはせは
 迷上しては省振
 いあはせは
 と款
 と恐

仙
 おの
 と
 怒
 せ



と女房の影と
 あはせは入る

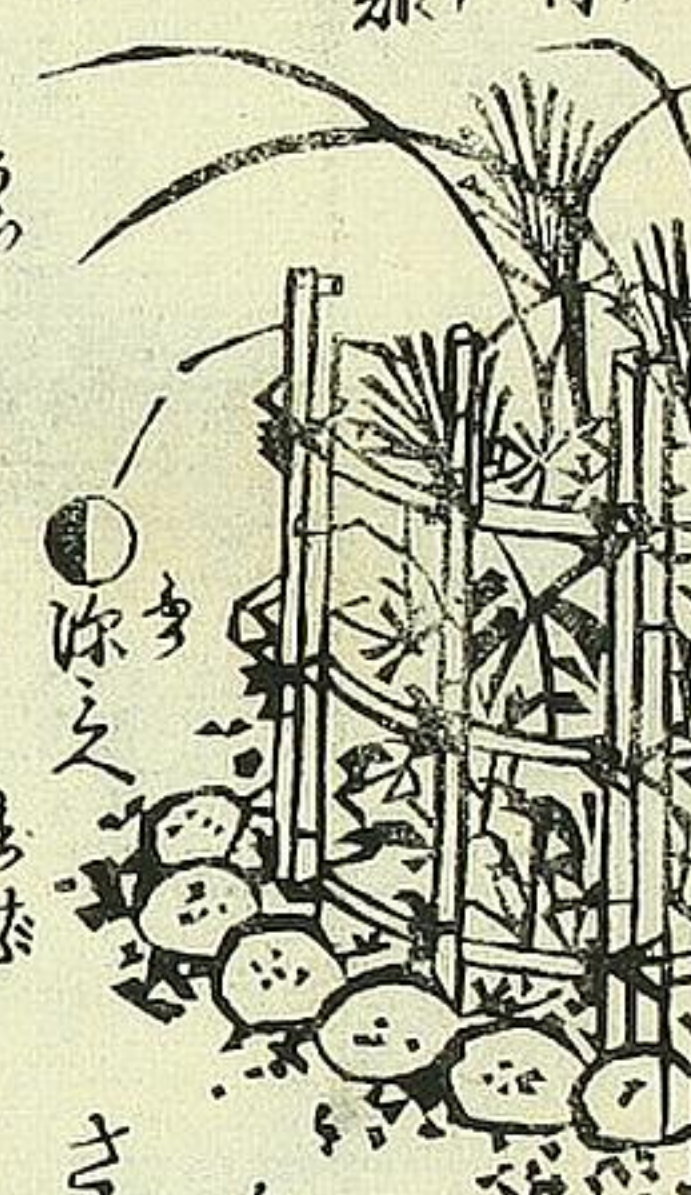
二人の小児も俱々
 小女様ごうりあはせは
 くと物
 老爺へ
 おんあはせは
 仙
 母と女抱る世と赤の娘は二才五才
 東西知れぬ世の影の影の影

第二回 仙

不方不

十の取柄持へる奥の
間さして進へる人

小川の肉通せし
我守の能をん付
らほと乃流の中
ねふ女とわく子
お糸の捕人小打



向ひ接扱をえんとせし内は
仙居のついでにうゑぬか妙く
遊びは足控の素よりお糸由
何と考へてひつゝあるお糸成
村前上の持座の表裏に
ある数百年経てた池の

お糸の
お糸の
お糸の
お糸の
お糸の
お糸の
お糸の
お糸の
お糸の
お糸の

必由
あつと
由

中の
巻八

關口文七

新編伊香保土産

一代の法に... 城中之... 人命を助... 持苦の事... 此上報知新聞に...

滋賀縣
今常盤布施譚

美談
初編ヨリ三編よと切
貞烈のよめ...

大石内蔵助一代記

寛政
中山誠忠録

全四冊
美談
全四冊

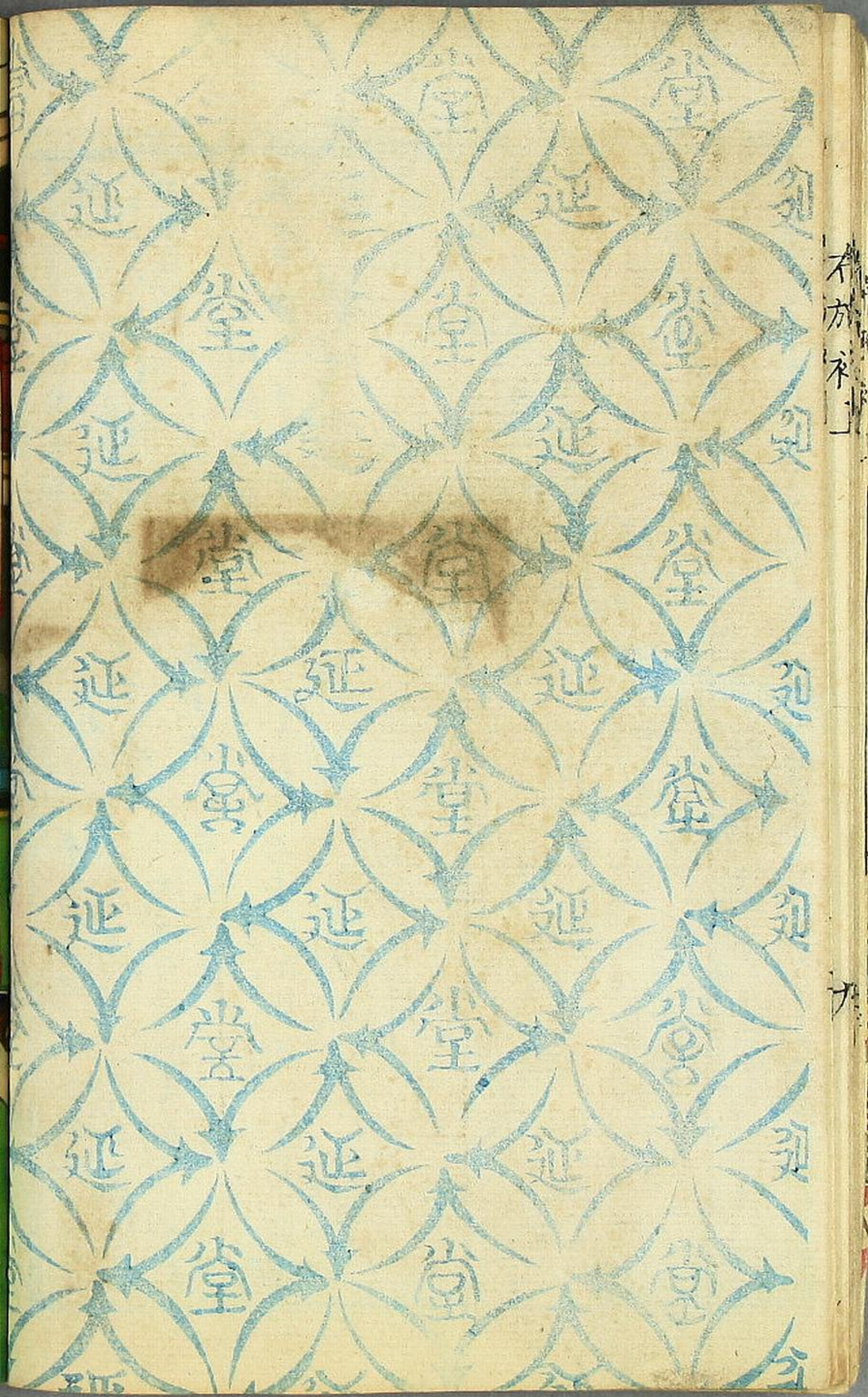
書肆
問屋
松延堂
大
伊勢屋庄之助板元

東京日本橋區松島町壹番地



松林伯圓著作
梅堂國政圖画

初編中



初編中

初編中



上らふき あり兼ます 故ま市代りて私う伝の越き取らんと思以申に 通う目サ

初の社会世面月より記事あり一余は終りて一第一寛服であり林

時天路小成ます 故とふち 右後月由あまどはさんで引揚て下さうませぬ

トふ市代方の足許が 風程

細君のつらつらに玉扱むもゆいさおれ

と水練知らぬ我々か 蓮池へ死

迎んでい仙ち事つとのと悟死由

同やう見い進以違

怒とまか入か

又ちふやうのには

まきん のん

貴殿のさぬく

せう のん

仙たつと後と情

ちきき 死んがの細君とさうらむむ 拙者とともたの

次へ



つぎ 甲斐守
 延びて
 風へ
 後の内
 進め集
 る家中の
 法武士
 氏後

岸辺より何きく花揚り
 入々アツク感らさず
 中の怪を彼
 美若小打むらひ何と
 おれのしやもさく
 世君のお蔭で史の鞍お
 揚下さうはて有難う
 ぶらり年すげ上の
 お懐小ぶらう皆
 さぬけりぬとも
 おるお
 小瓶お抱へ
 中し上



ま事と
 近藤の人々
 と云けり
 ま人の士族
 又をく
 丈の男
 云の長
 を脱
 々と
 き後の
 言沈へ
 延びが

近藤の人々
 と云けり
 ま人の士族
 又をく
 丈の男
 云の長
 を脱
 々と
 き後の
 言沈へ
 延びが
 入る俄
 仙左
 ばあ
 洗ひ
 撲
 て
 一
 来りて
 珍

不亦不

二



先と乳甘文田友より
ねと故も同族族の
甲斐の婦人

末と封建の愛光めは
切付や果し合の
合と探し子かて士族の
おとそあのと由なるのと

の乳甘文田友より

牌物糸糸

糸糸

させ下を刀のみ

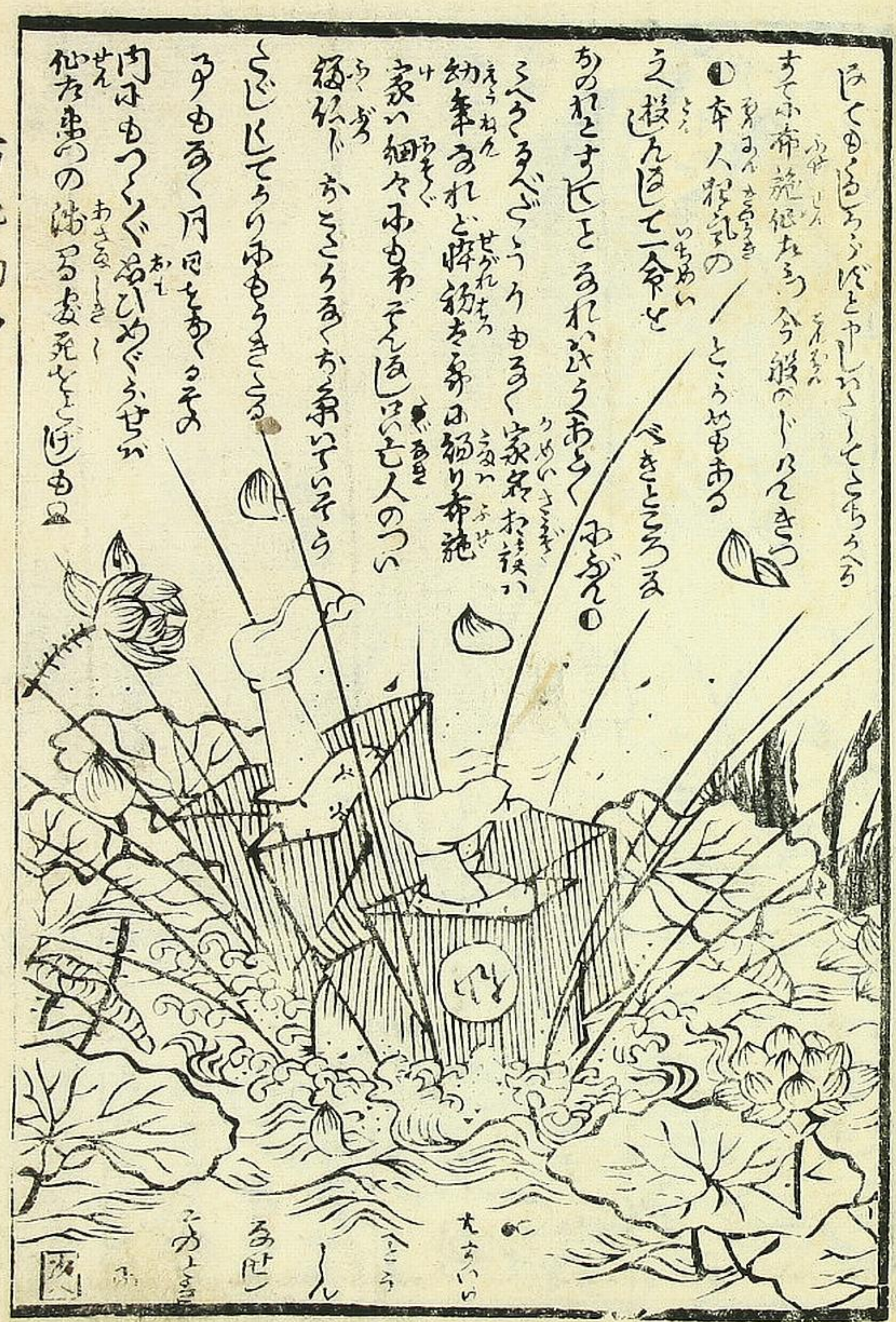
と文田の恨み物

下筋糸糸結し女

一心時ハ物糸の始

あれと

授け世より
附おられね
治療も
女提か
連海り



ほくも
すて小希
● 本人
之様
あつれ
ふらう
幼奉
家の
縁
ふも
内は
仙

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

今般の
とら
ま
お
の
ま
ま
ま
ま

不亦不

二

新編 新編 新編

水の中へ流さるる

引揚り被る者

山緑の流るる丹の

与三郎のよ

髪は家小

て合



あそび面をたいてとる

さる玉ゆそありなる

丹のいのちをうけて

ふりゆく

のふ

るま

この

多

く



合子 さまの末のよの

中發しき折小江戸郎と云

上家へ抱入小る 食糧五斗のて初物

指南後と初めは後五人の供と多し大衆

村へきては後由屋家中へ武術を

侍へ彩系をれと勢ひ強し我徒

家隆子才を捨ててははる大酒

好くやともまると同家中と

い編小及び甚くは小島

ていそをてはてはは

せどいそをてはてはは

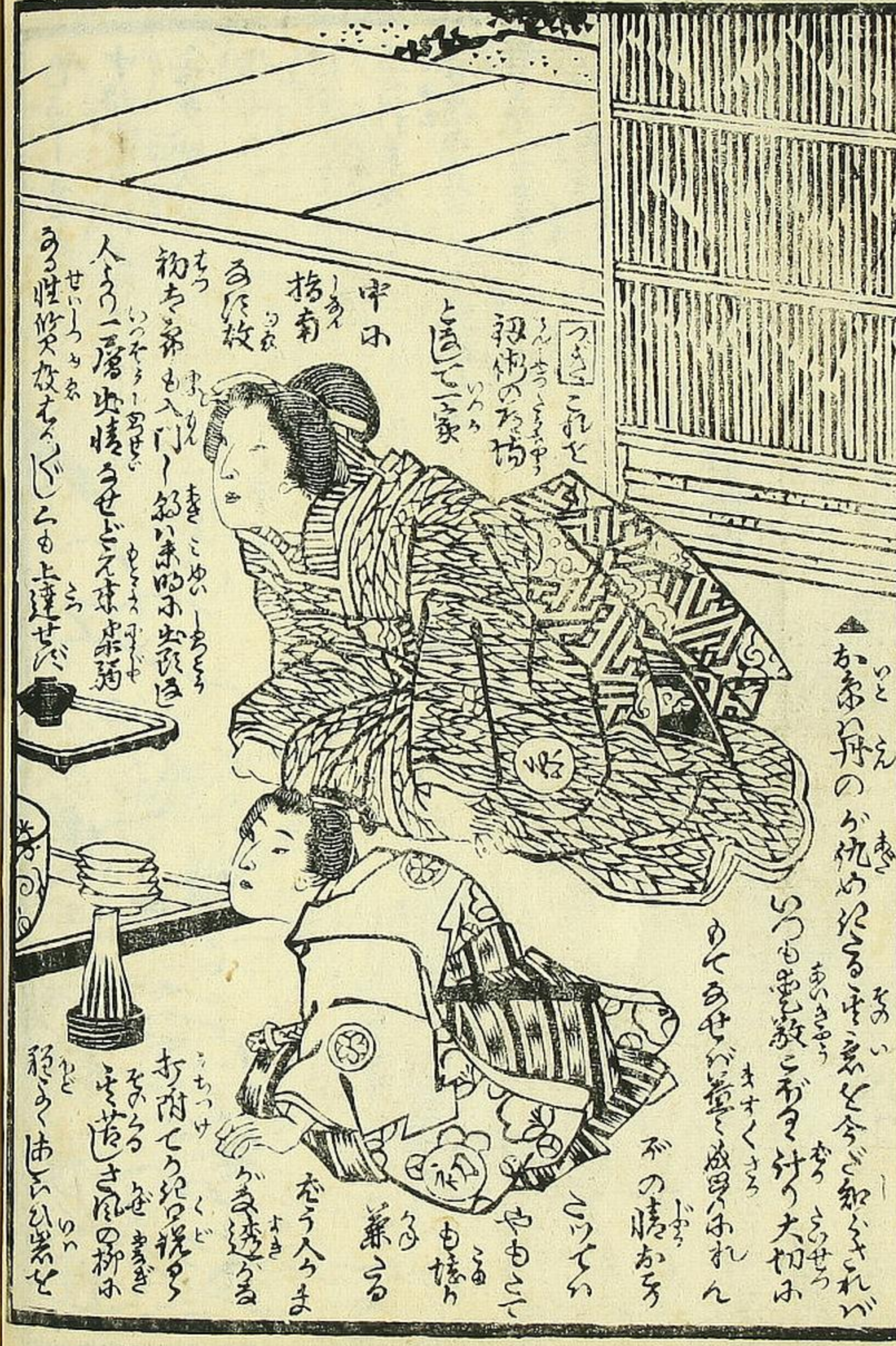
るれといはれられは大力

初物のりさふされはる



家小

新編 新編 新編



かゝる舟のつゆめたる中を今と知りたれば
しるも世教にあらけり大切の
ゆゑに世の世を成すはれん
不の情かす
こつての
やもこ
由縁の
兼る
をうへうま
かま透る
お内てり地は後
そのる
そとさ
秘の味は
ある性気なむくじこも上達せ

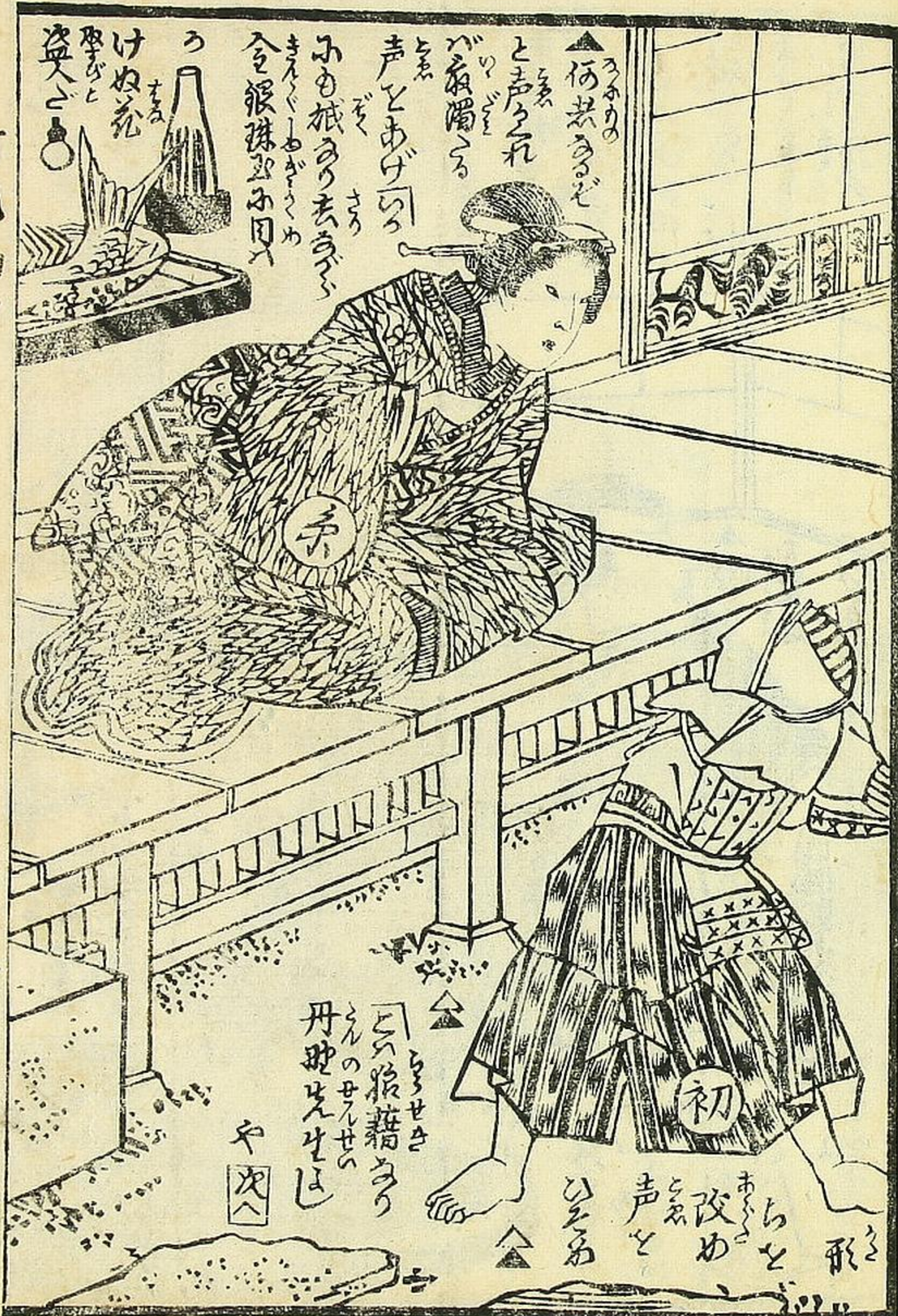
ついでこれと
秘術のたつ
とほこ家
中
格有
るに故
初を家も入門し秘の味は
人より一層出懐きせとて味味
ある性気なむくじこも上達せ



おまふん痛は丹枕と云く
敬して折々己が家へ振き
者ど好く公堂を以ては
子とあふ放初のとく

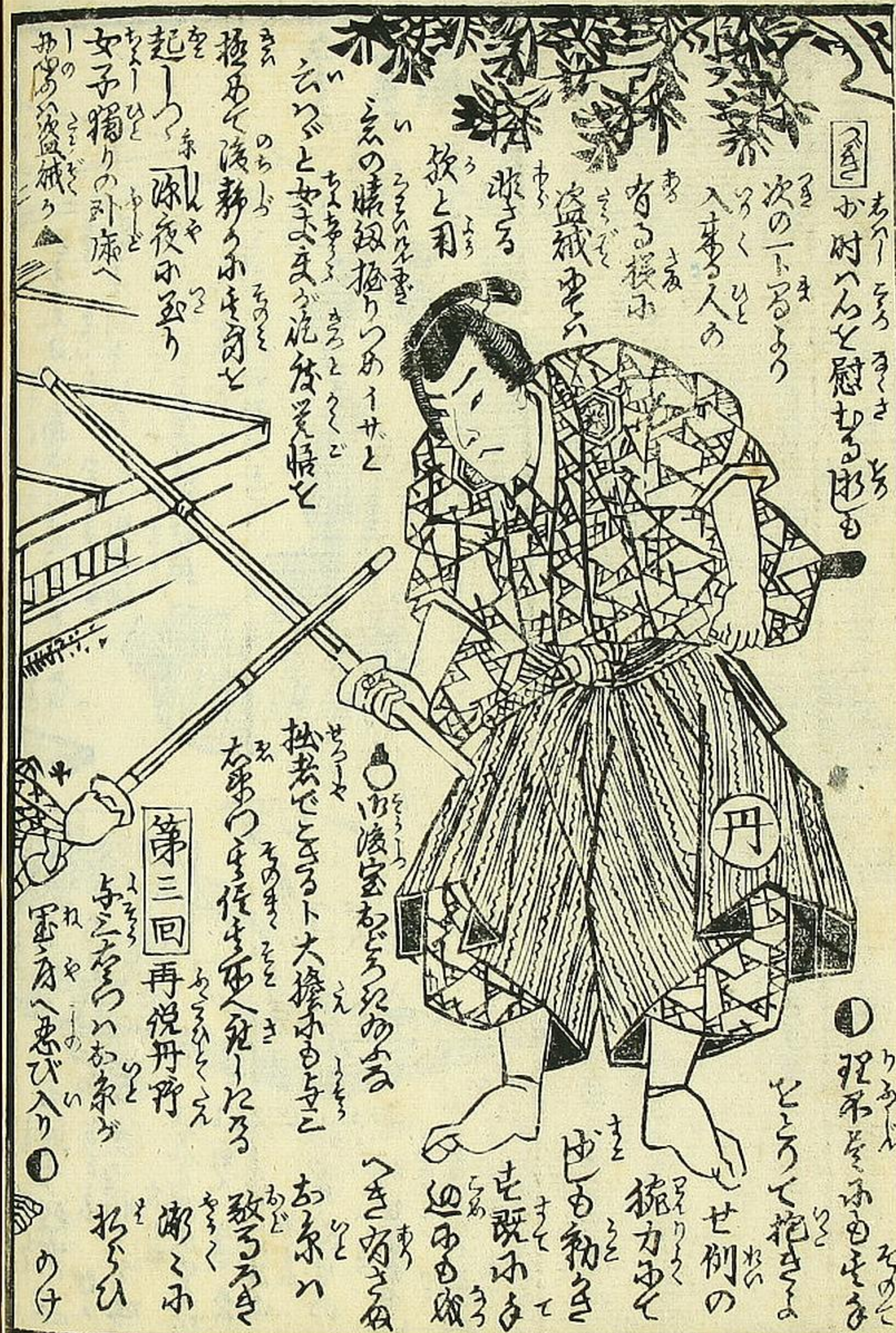
右第の心迷
ひねいお糸の
まふのまふの
坂も越へて海
布より我れおひの骨
海
海
換子の瘦小推し
己色の猪子の

由通す親女の心
まの胸と
さんといまの
秘意は因の
液二筆跡の
中句せいの
どを嘆ぬお糸
兼るゆまの
去来して海の中
世満るる生夜中
せめての
兼るゆまの
友とは贈りて



何れもさぞ
 と声なれ
 ばお濁る
 声とあげ
 ふもぢりりま
 きんくあか
 全銀珠お小田
 う
 けぬ花
 盗人
 盗人

初
 改め
 声と
 ひさ
 飛
 丹
 丹
 丹

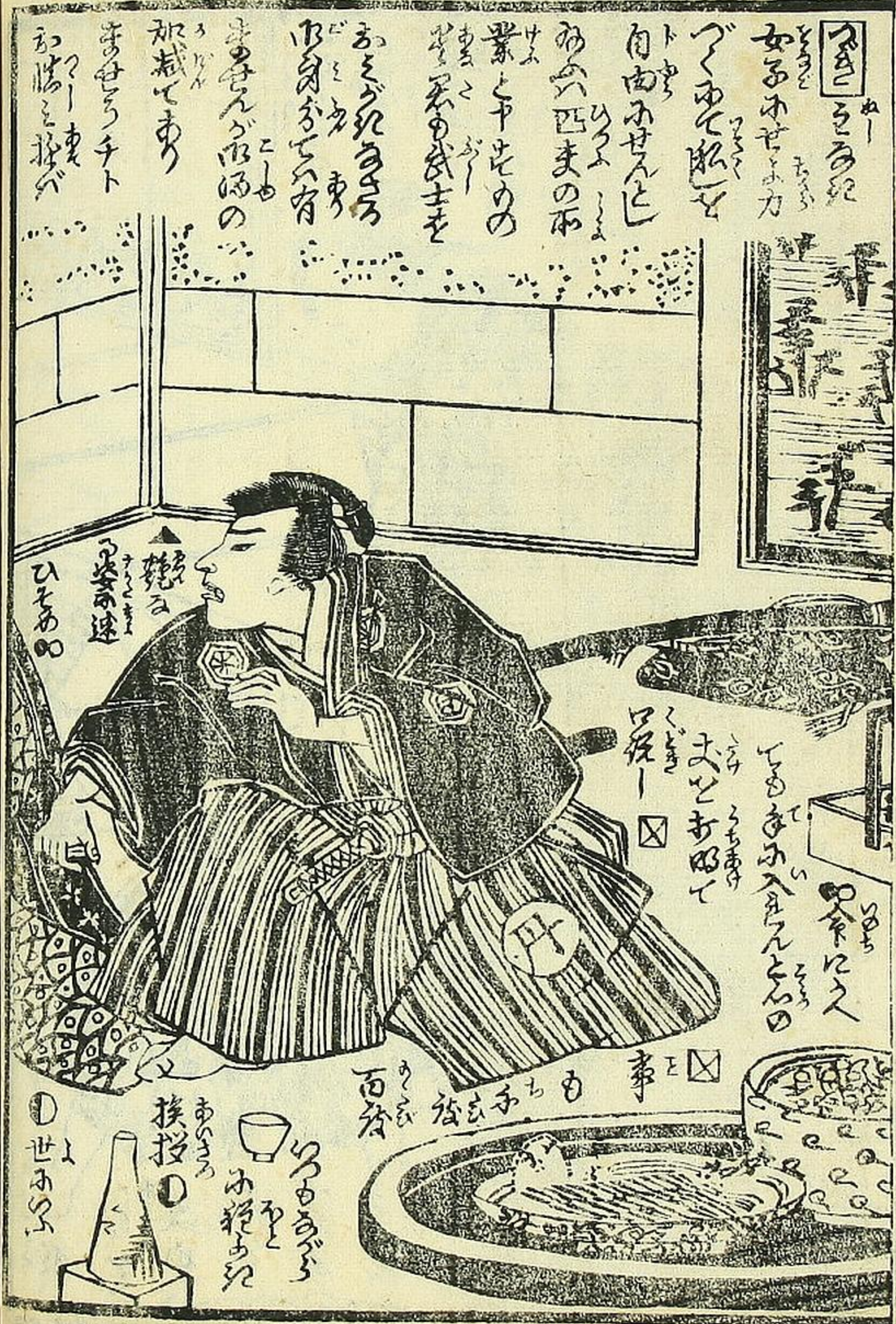


次の一するより
 入る人の
 有る様
 盜賊の中
 故と利
 之の懐緞振りつめいサ
 云々と女さまが
 極めて後新うふま
 起しつ
 女子獨りの床
 舟の盗賊

丹
 第三回 再悦丹
 丹
 丹
 丹
 丹
 丹
 丹
 丹

丹
 丹
 丹

丹



柳林
 柳林

石地
 石地

つぎ 男子の恥辱

止と云ふは今迄の事

と実殺し本意を

ひたであつて

せめてせらるへ情死

と深名をのこす

けのの涙を「それ

絶と云ふ事

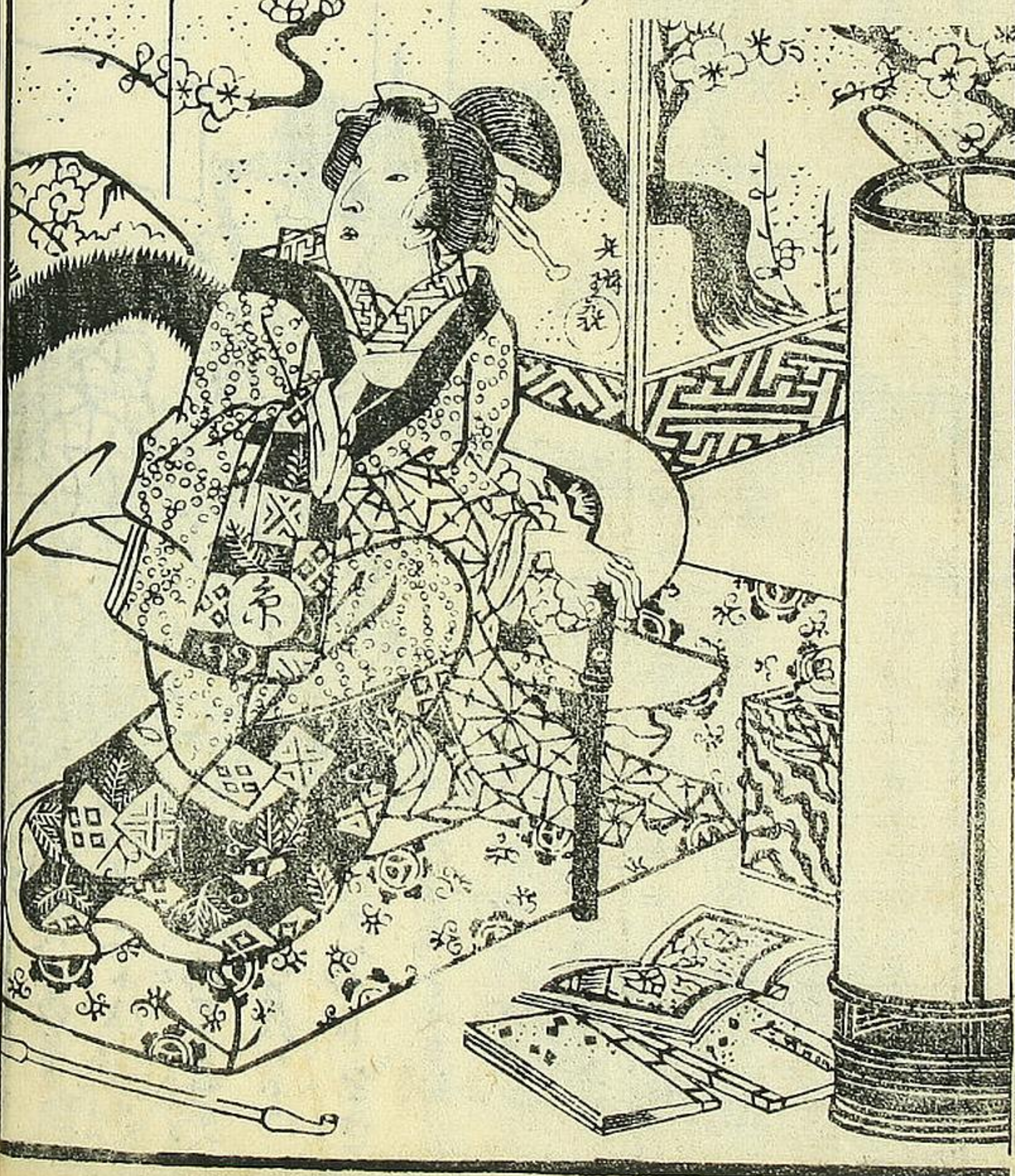
うりもすし」

を「今小うて

横巻きむふん

べつとよる取組

道小のくもて



合意 後子 不承 不承

後も 後子 不承 不承

一 後子 不承 不承

お系と 引寄せ

お系も 引寄せ

おひめと 引寄せ

仇と 引寄せ

力のと 引寄せ

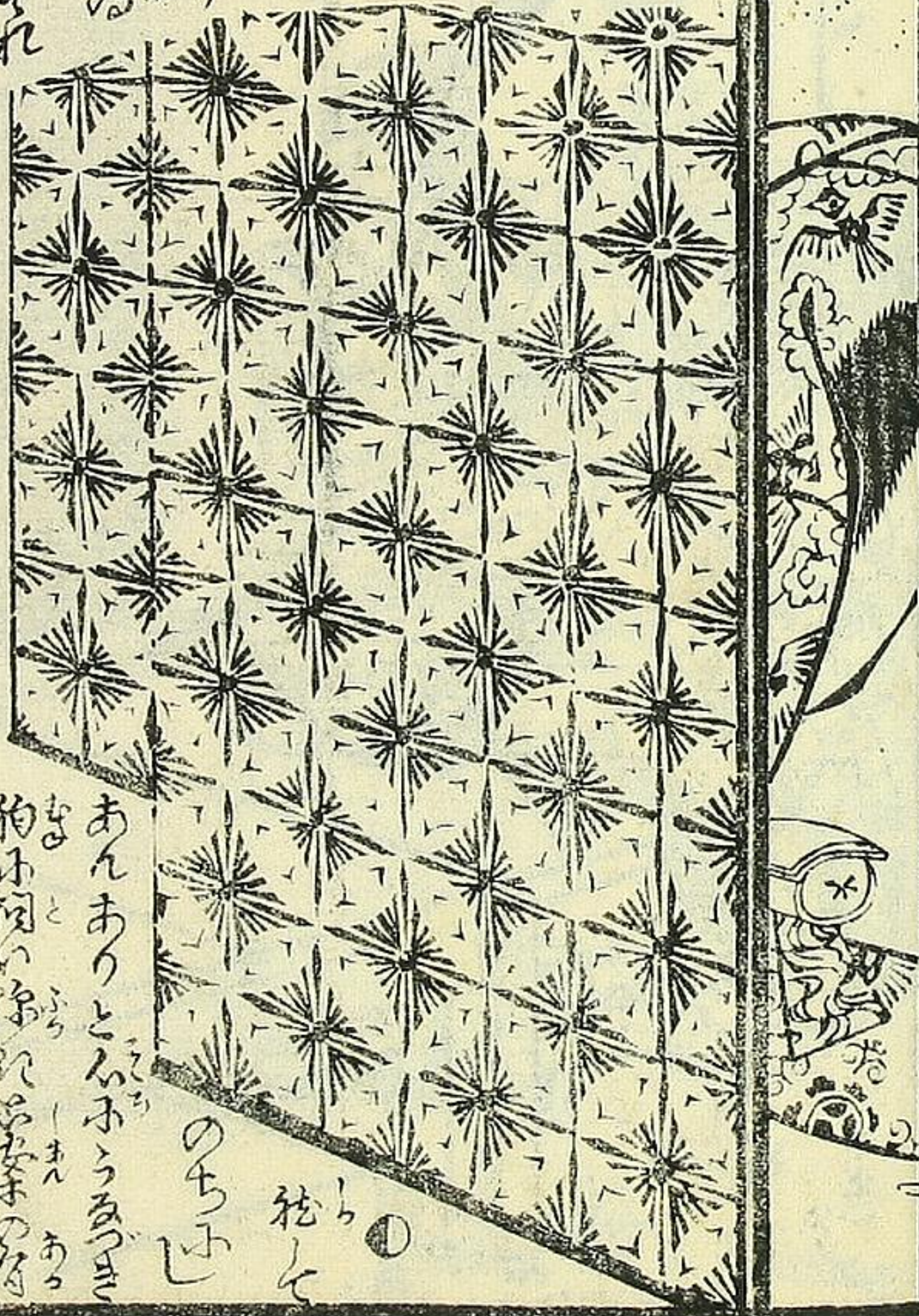
小武と 引寄せ

は丹の 引寄せ

と逆も 引寄せ

美赤は 引寄せ

味方と 引寄せ



あんありとんふらあ

狗小の 引寄せ

をとも 引寄せ

引寄せ 引寄せ

情差を 引寄せ

引寄せ 引寄せ

引寄せ 引寄せ

引寄せ 引寄せ

引寄せ 引寄せ

引寄せ 引寄せ

神流社中

丹のふ
向ひ
小の系
依の通
由大や
云ん
中しま
せぬ
うへ
公能く
其の自
由に成

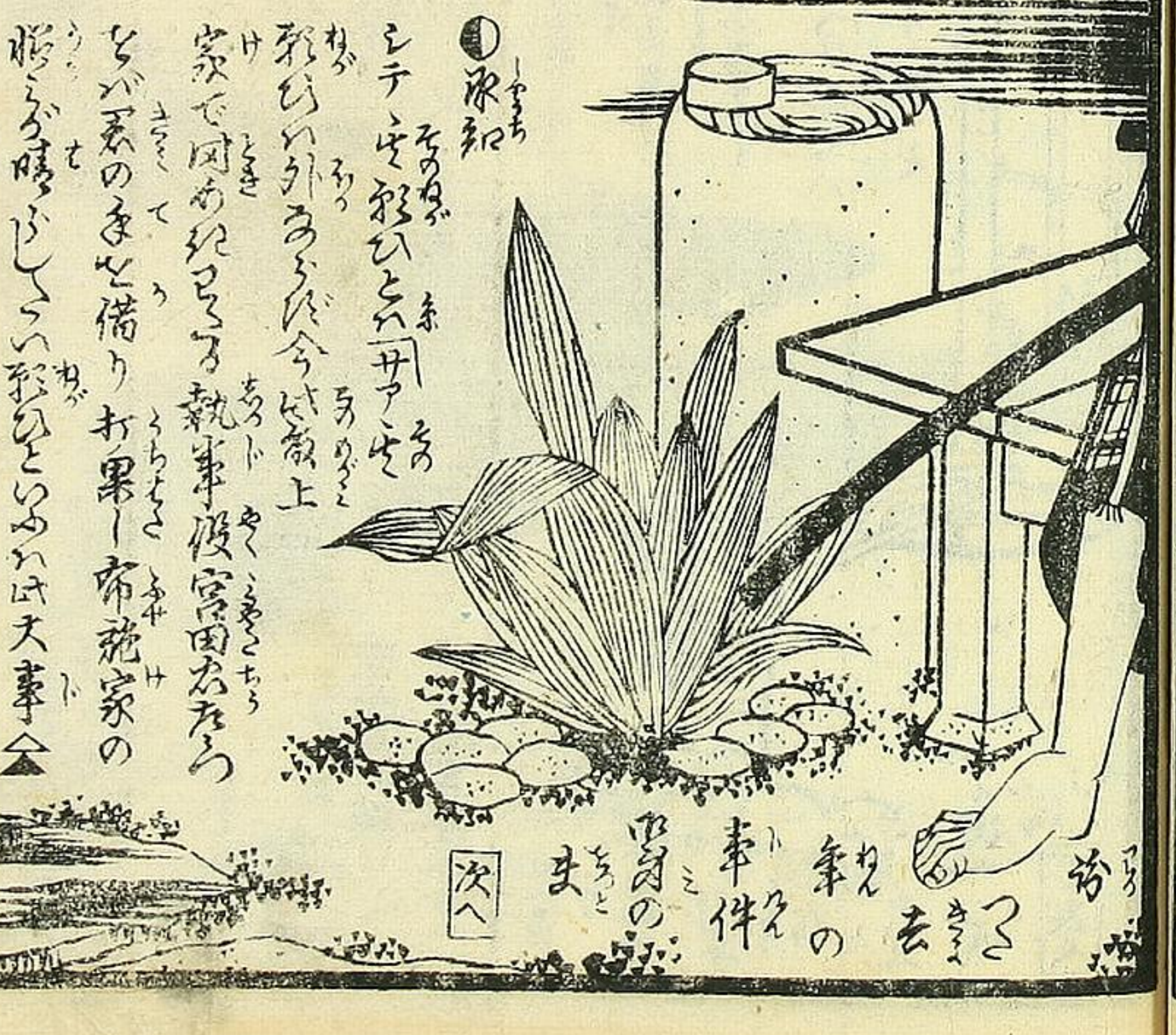


丹
引
と

ませり
松一
まが
ま小
ひとろ
お入て
おひの
まわが
あり
宿者
流放
けへて
下さる



△そのん
舟を承知
松一
まが
舟
のとり
命さえ持る
未何様
おひの
お出
まが
やるとある
まする

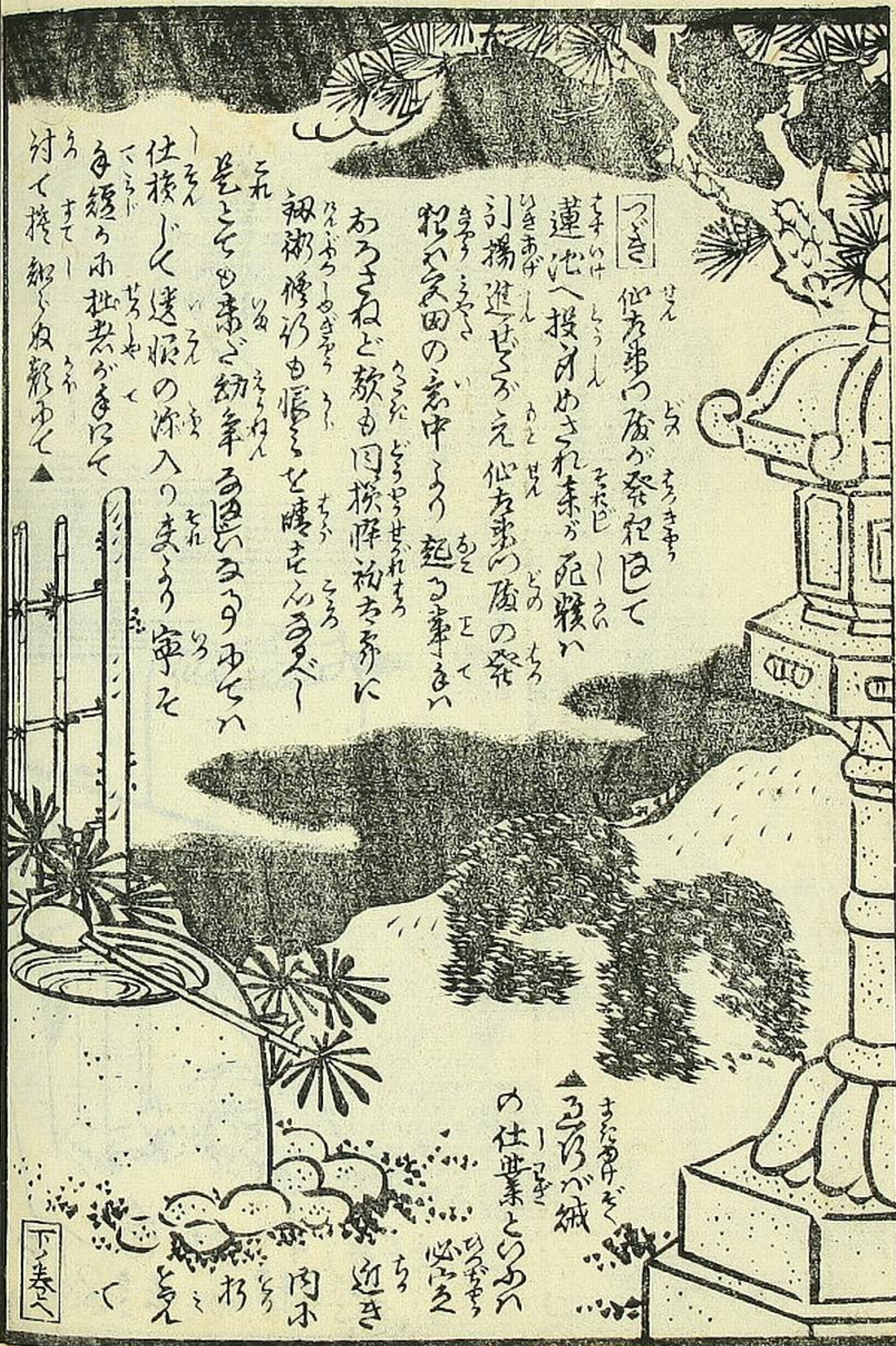


①源知
エテ
おひの外
家で
おひのま
勝る
舟
の
事
件
の
去
次へ

市色刀中

九

存続中



つぎ 仙方弟の版が祭に於て
蓮池へ投められ朱が死骸の
引揚進せよと云仙方弟の版の祭
祝の美田の意中より起る事
あらまねと教由同族降初志
初編修り由信とと確たる事
是と云ふ事幼年よりあり
仕接しと迷娘の涙入りのま
多程の事批者かまは
付て接知るぬ形あり

この城
の仕業との
必之

近き
肉小
た
て

下巻

關口文七 松村伯圖著

新編伊香保土産

初編ヨリ五編大尾

滋賀縣 松林伯圖著

今常盤布施譚

初編ヨリ三編ヨリ

大石内藏助一代記

全四冊 美談

中山誠忠錄

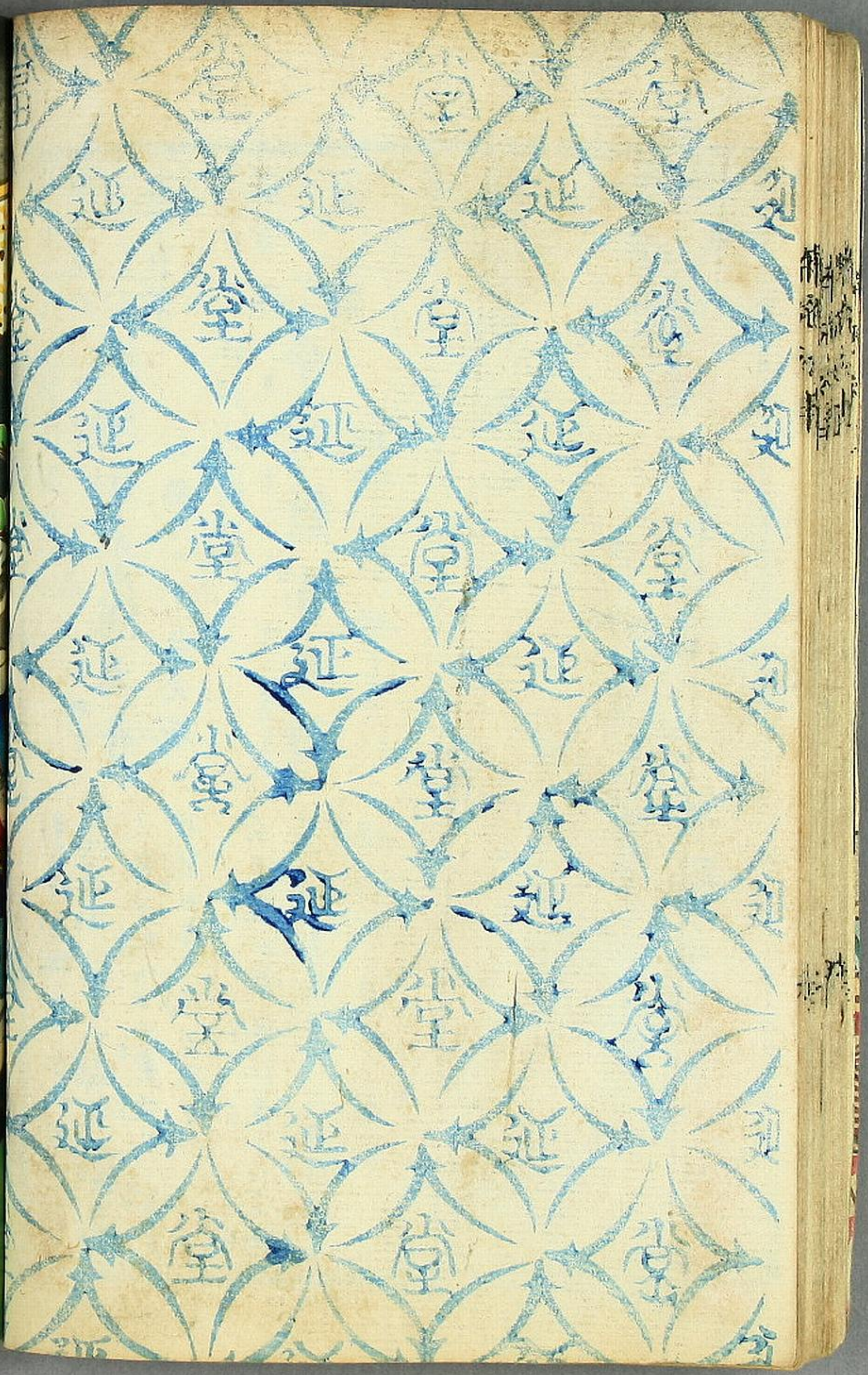
全四冊

書肆 問屋 松延堂 東京日本橋區松島町壹番地 西大 伊勢屋庄之助板元



松延堂壽祥

四編下





奇村記

一

二

二



新編 浮城物語

丹

次へ



まご和じく雨冷
 益る丹丹成る
 一トあひふ
 実殺し
 亡まへ云
 解せんものと
 思ふも通す女女の
 一心のくも雲せし
 与之右弟のくまは
 四五日布絶家
 来らば如何せし
 とあひにけし
 ちんト
 孫事らせ

○おまふり
 主始終と尋ねられ
 亥以布絶家の帳もある
 宮田忠左衛門の一日夜上家の
 領内き同玉上大蔵村ある
 竹林の本秋柿殿建築
 落葉のまはるび小村安
 吹流る神風
 のあま桃灯
 吹く風の園

四南
 夏申
 冬
 春
 夏
 秋
 冬



今日とありふ
 深ぬく人
 揺るる
 今とありふ
 今とありふ
 日夜と送る
 口惜し
 幼あけれ
 秋子のあ
 茶場妓小
 ひら〜紅さぐ
 さと物流るあま

合破船氏へ
 招くまを元
 の死をふり
 飯小入りて十時
 下船が暗るに
 挑灯村まの治
 二年まを古風
 ありは装ま
 乙まが登るへ
 取りる

村森大

行絶乃下

日

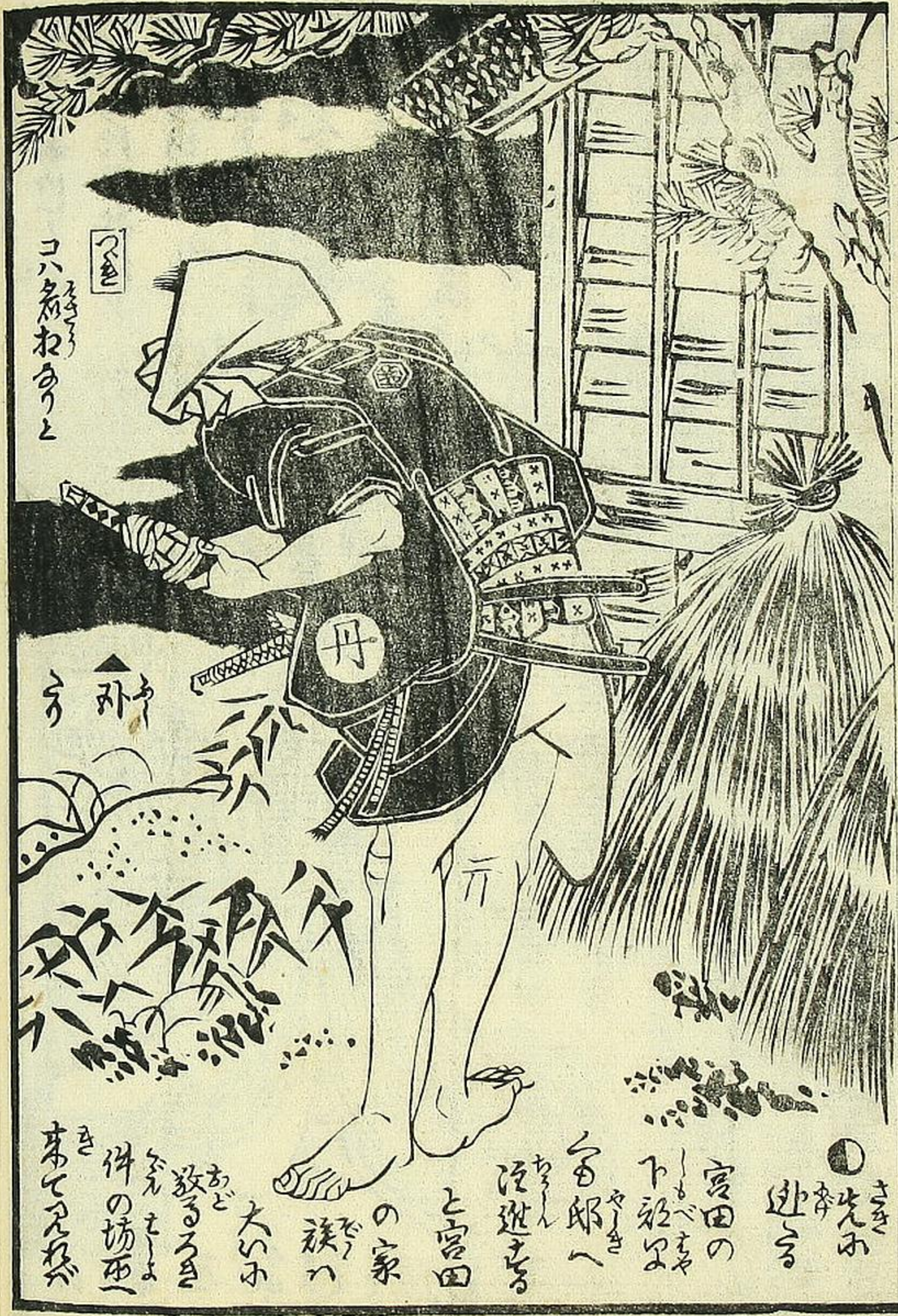
本村一

三



つゝあや内侍、
 身中差しうとせり
 出方大の男腰さる
 一刀抜きもるせは
 宮田美膳と切付
 ねの元来
 不意の事
 ちあふ我ふひや
 由あふんそそ
 勿きち
 二の老刀
 海らゆまされ
 地とくさうと

つゝあや内侍、
 身中差しうとせり
 出方大の男腰さる
 一刀抜きもるせは
 宮田美膳と切付
 ねの元来
 不意の事
 ちあふ我ふひや
 由あふんそそ
 勿きち
 二の老刀
 海らゆまされ
 地とくさうと

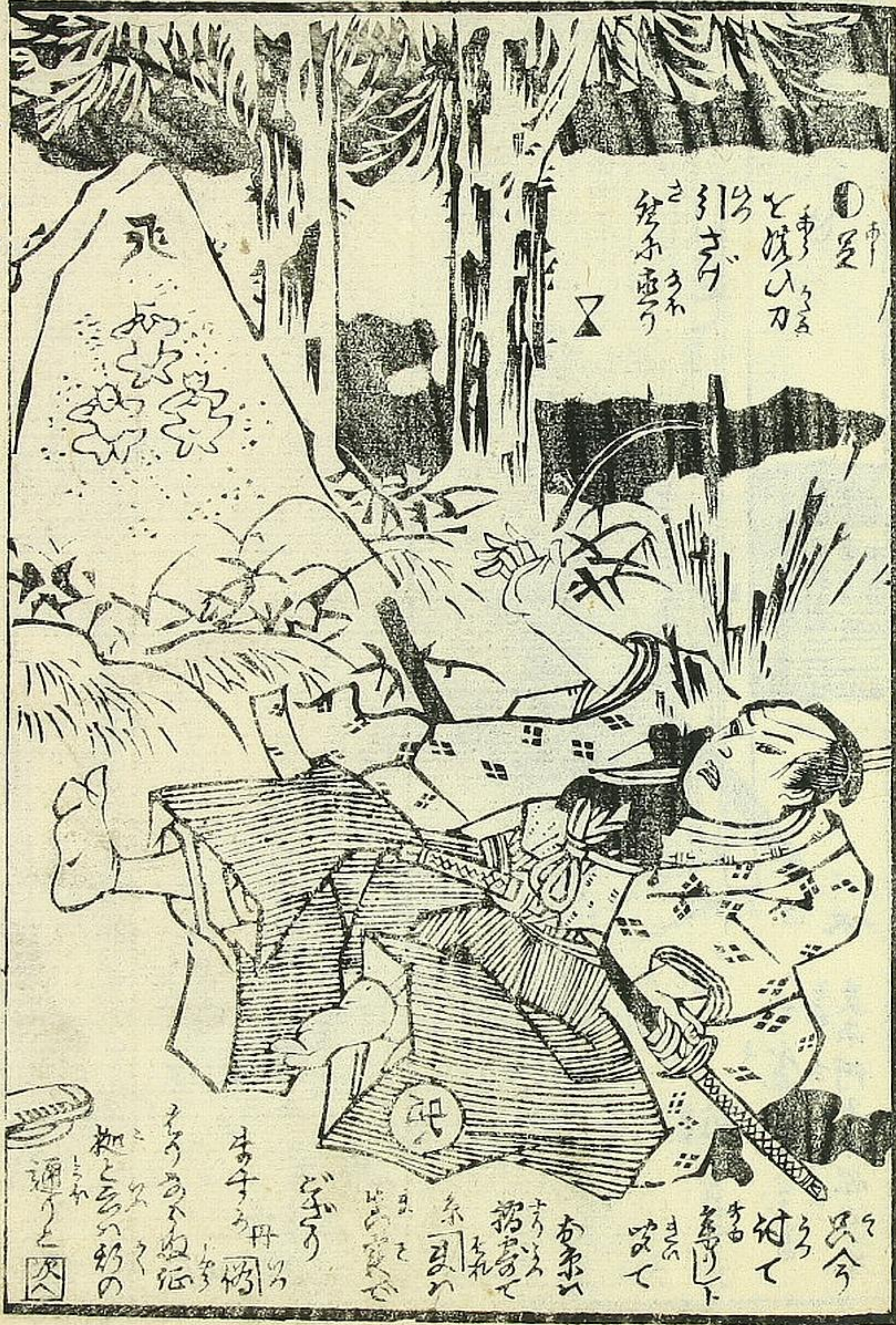


コハ名おありと
 丹

先小
 逃言
 宮田の
 下野
 下野
 丹
 大い小
 教るる
 件の坊西
 東てえは

本方

四



中
 ① 足
 中
 ② 足
 中
 ③ 足
 中
 ④ 足

中
 ① 足
 中
 ② 足
 中
 ③ 足
 中
 ④ 足

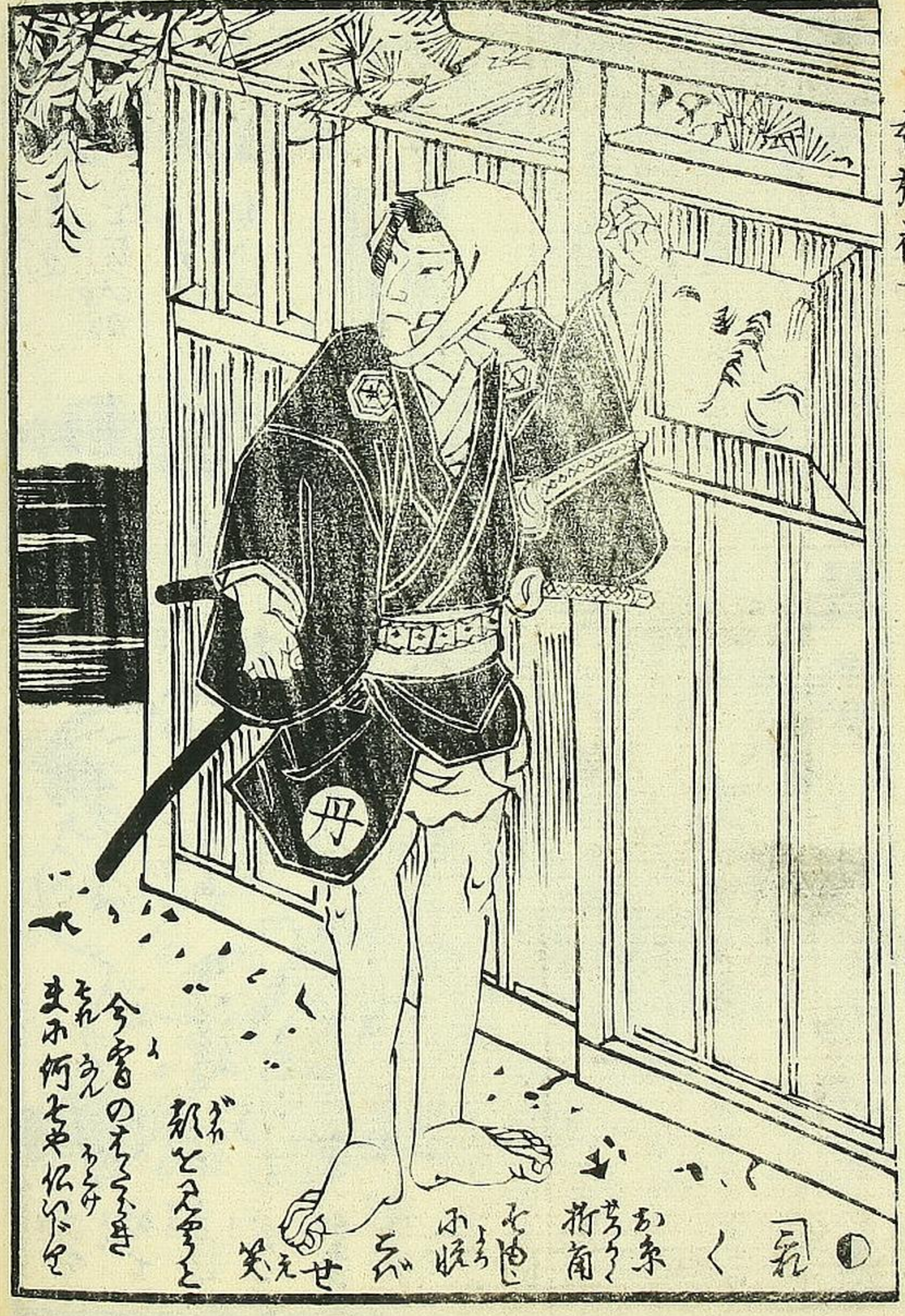


丹家内の
 丹家内の
 丹家内の
 丹家内の
 丹家内の

丹家内の
 丹家内の
 丹家内の
 丹家内の
 丹家内の

ちよんわとこれ
 血汐の流是とある
 よりお糸の恨を
 友よと合世故を
 糸 糸の丹波先生
 何よも言及有難う
 何よも言及有難う
 びつと洗はりて
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生

糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生



糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生
 糸糸の丹波先生

糸糸の丹波先生

糸糸の丹波先生

ふきくたれと細の袋敷ありと
丹那の例へ舞うに故し酒のおまひ
陽の端とつらひ若ふとあまぬ
丹那の引く世そへあまふまは

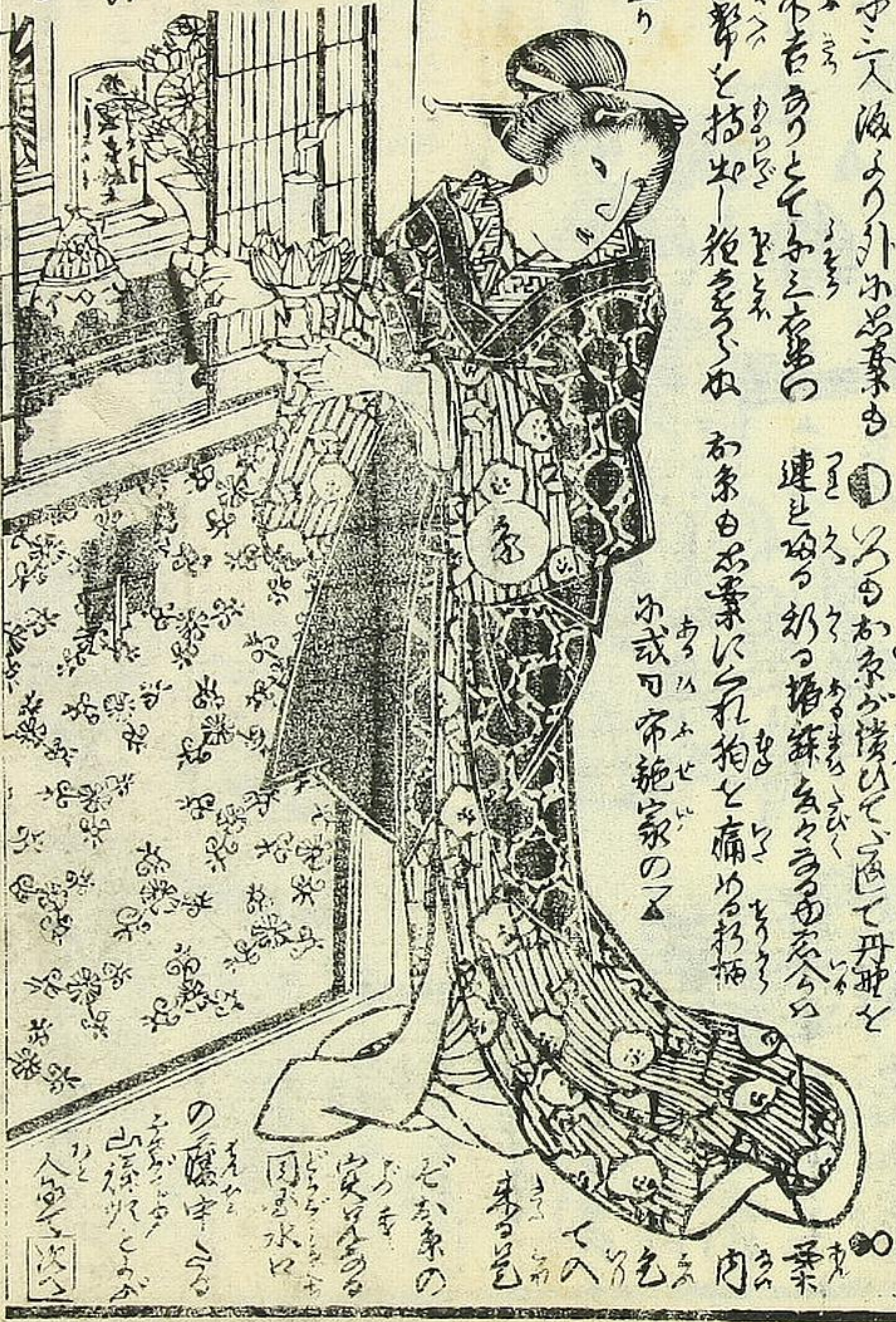
奉のまひ

○世の憂さそ花お早れ
て又いと昔昔めとあ
酒は目の心せとあまふ入
の老のらあ糸の丹那の鏡力お
亡夫の懐らとくこれと昔く丹那
の入りと小石倍倍の内暴をね回
後々に礼の裏り後子己どのあふ
けのぬりあつとを糸のあ



丹
主
小
揚
一
名
の
酒
の
士
後

物を弁後子の二人を打つて
密の紙子へ入海より外のお葉由
はさのる昔ありとふとあまの
令銀杖帯と持知し後まふぬ
河橋おあり
義お娘よ
舞ふと
柱おあり
二二回
けと紙と
おと
竹の足
生肉の



葉由
の
肉
葉
の
内
の
水
の
人

〔文〕 礼儀正しく對不
 つけお糸の丁寧は
 漢語は、漢の口
 上も淑く清く涼しく
 へんし、死に、河
 妹今、雨、水、は
 う、逢、ま、り
 への義、あ、れ
 ひと、ま、り、方、に
 尋ね、ま、す
 細く、育、つ、の
 事、も、外
 お、人、も、あ、れ



二下
 ろ、れ
 ぶ、ん、つ、あ、れ、い、ま
 ぶ、ん、痛、長、命、ま、れ、ば、い、ま
 〇はりの見あぐ
 その、ま、ま、り、又、下、上、風
 彼、ま、ま、り、と、外、の
 市、五、板、け、見、か
 滑、く、お、徳、め、し
 母、に、代、り、て、ま、り
 七、夜、折、つ、つ、あ、る
 ぶ、み、お、ま、り、ま、り、い、ま
 生、ま、ま、り、い、ま
 不、義、婦、り、い、ま
 男、猪、り、い、ま
 女、お、ま、り、い、ま
 昔、小、引、い、ま、い、ま

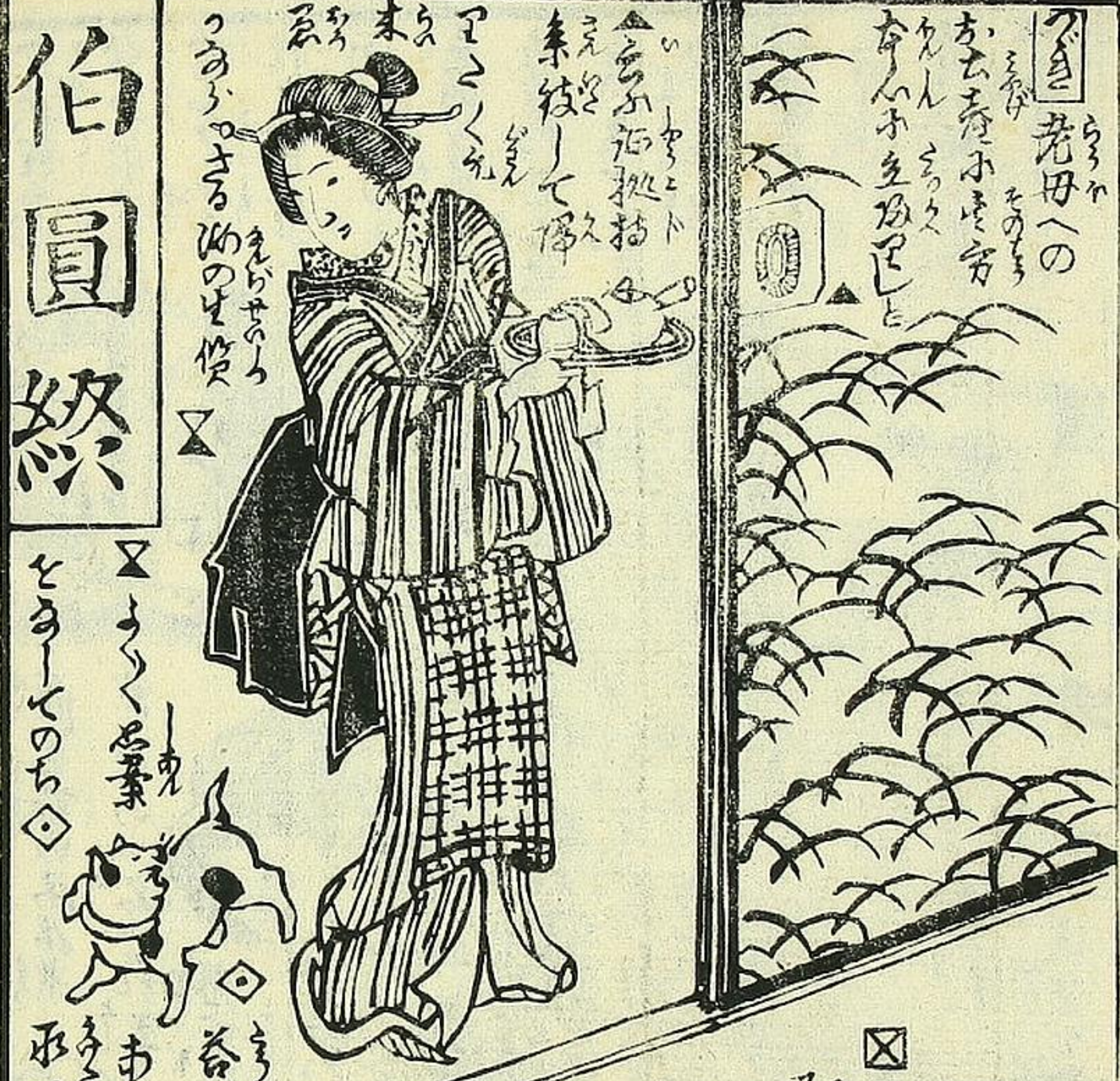
今の、浮、名、い、ま、い、ま
 初、希、希、と、申、い、ま、い、ま
 退、き、ま、り、い、ま、い、ま
 物、の、旨、い、ま、い、ま
 由、ま、り、い、ま、い、ま
 有、り、母、の、不、
 子、仍、い、ま、い、ま
 今、日、い、ま、い、ま
 水、足、を、加、入、い、ま、い、ま



武家の、名、い、ま、い、ま
 名、い、ま、い、ま
 若、て、ま、り、い、ま、い、ま
 今、の、浮、名、い、ま、い、ま
 初、希、希、と、申、い、ま、い、ま
 退、き、ま、り、い、ま、い、ま
 物、の、旨、い、ま、い、ま
 由、ま、り、い、ま、い、ま
 有、り、母、の、不、
 子、仍、い、ま、い、ま
 今、日、い、ま、い、ま
 水、足、を、加、入、い、ま、い、ま

國政畫

伯圓終



おやめ
おやめおやめ
おやめおやめ
おやめおやめ

おやめおやめ
おやめおやめ
おやめおやめ
おやめおやめ

おやめおやめおやめおやめおやめおやめ

おやめおやめ
おやめおやめ

おやめおやめおやめおやめおやめおやめ
おやめおやめおやめおやめおやめおやめ
おやめおやめおやめおやめおやめおやめ
おやめおやめおやめおやめおやめおやめ

今般松延堂の需りり鷹ト千か世記講談にたるせり
滋賀縣の奇談と輸入紳史と普通述とせとの依頼り
後へと早吞込と札へ向けてる所口で云と大に違ひ
編者
夫人君子や学者おんせむのものをねの杜撰誤字原稿
の拙文の營業もいと老男一と

明治十二年一月

松林伯圓演

御届明治十二年五月十日

地水問屋

編者 若林義行
出版人 大西庄之助

